ISSN: 2435-8851

とこはことのは

第 37 号
２０２４

常葉大学外国語学部言語文化研究会

表紙の題字は木宮健二理事長

目次（簡略版）

Ⅰ　巻頭言…… 1
Ⅱ　外国語学部共通…… 3
　1. 教員エッセイ …… 5
　2. 外国語学部コロキウム ……14
　3. 外国語学部文化講演会 ……18
　4. 特別研究の題目 ……24
　5. 学内外での教職員や学生の取り組み ……29
Ⅲ　英米語学科……31
　1. 高校生対話弁論大会 ……33
Ⅳ　グローバルコミュニケーション学科……35
　1. 海外事情談話会（GC 学科コロキウム）……37
　2. 多言語レシテーション大会 ……39
　3. 社会人基礎力養成 ……46
　4. 臨地実習 ……51
　5.（GC）学内外での教職員や学生の取り組み ……54
Ⅴ　各言語圏での活動……57
　1. 英語圏 ……59
　2. スペイン語圏 ……80
　3. ポルトガル語圏 ……88
　4. 中国語圏 ……90
Ⅵ　退職者……93
Ⅶ　外国語学部言語文化研究会……99
編集後記…… 102

目　　次

Ⅰ　巻頭言

……増井　実子…… 1

Ⅱ　外国語学部共通

1. 教員エッセイ

1-1. 日系カナダ移民の出身地を訪ねて……天野　剛至…… 5

1-2. 佐野富士子さんを偲んで……江藤　秀一…… 8

1-3. 教科書なるもの：Roberto Oest 教授を偲びながら …若松　大祐……11

2. 外国語学部コロキウム

2023 年度外国語学部コロキウム ……14

3. 外国語学部文化講演会

2023 年度外国語学部文化講演会 ……18

ネパールのバディ族を支える NPO 法人ゴスペルエイドの取り組みを通した学生の学び

……宮腰　宏美……19

4. 特別研究の題目

4-1. 英米語学科卒業研究題目一覧……24

4-2. グローバルコミュニケーション学科特別研究

共同翻訳文献およびサブ・レポート題目一覧……26

5. 学内外での教職員や学生の取り組み

合同ゼミナール……若松　大祐……29

Ⅲ　英米語学科

1. 高校生対話弁論大会

第 39 回静岡県高等学校英語対話弁論大会報告 ……33

Ⅳ　グローバルコミュニケーション学科

1. 海外事情談話会（GC 学科コロキウム）

2023 年度海外事情談話会 ……37

2. 多言語レシテーション大会

2-1. 第 10 回多言語レシテーション大会 ……若松　大祐……39

2-2. re-「再び」cite「呼び出す」ことへの挑戦……増井　実子……44

2-3. AI 時代に暗唱する意義 ……谷　誠司……45

3. 社会人基礎力養成
現代の学生気質に配慮したキャリア教育の方向性に関する一考察
……谷口　茂謙……46
4. 臨地実習
4-1. 臨地実習
はあとふる Yaizu における多文化共生推進活動　……増井　実子……51
5.（GC）学内外での教職員や学生の取り組み
5-1. 歓迎聆聴：2023 年度公開講演を実施して　……若松　大祐……54

Ⅴ　各言語圏での活動
1. 英語圏
1-1. カナダ留学を終えて学んだこと……勝村　寧々……59
1-2. カナダ語学研修（ビクトリア大学、2023 年 2 月）の概要
……新妻　明子……62
1-3. 日本とカナダの建築的相違点……稲葉　理衣夏……64
1-4. カナダ語学研修（ダルハウジー大学、2023 年 8 月）の概要
……新妻　明子……73
1-5. Welcome to Halifax!　―ダルハウジー語学研修―
……加藤　羽那、佐藤　さくら、杉山　萌美……75
2. スペイン語圏
2-1. 2022 年度春～ 2023 年度のスペイン語圏関連の活動報告
……増井　実子……80
2-2. 挨拶から感じた文化の多様性……村山　天音……80
2-3. ¡Baile! 私流の異文化交流　……望月　愛……82
2-4. ゲルニカの衝撃……秋山　ひより……83
2-5. 2023 年度　スペイン・ラテンアメリカ特別研究サブレポート抄録
……増井　実子……85
3. ポルトガル語圏
地球の危機の現場からの声を聴いて……大木　萌々華……88
4. 中国語圏
2023 年度の中国語圏における研修　……若松　大祐……90

Ⅵ　退職者
戸田勉先生……95
石川芳恵先生……96
相葉吉輝先生……97

Ⅶ　外国語学部言語文化研究会
『とこはことのは』37 号の編集の現場 …… 100

編集後記 …… 102

I　巻頭言

巻頭言

『とこはことのは』という貯蔵庫

外国語学部長　増井　実子

外国語学部には教職員と学生から成る「言語文化研究会」があり、本誌『とこはことのは』はその機関紙にあたる。1 年間のさまざまな活動を振り返り、教職員と学生が考えていることや感じていることを披露する場として、本誌は重要な役割を果たしている。今年度も第 37 号が刊行の運びとなった。

毎年、師走の声を聞くと、『とこはことのは』編集長から外国語学部の教員や学生に向けて原稿募集のメールが届く。今年も、そして今年度も終盤だ、とこのメールで気が付く。自分が担当した授業や課外活動を振り返り、それに携わった学生の顔を思い浮かべる。本来『とこはことのは』は学生の自主的な投稿を旨としているが、この種のエッセイやレポートを書くことに自信のある学生は意外と少ない。したがって、顔が思い浮かんだ学生と少し話して、あなたの体験や活動は他人から見ても素敵だし書くに値するものだ、ということを伝えてみる。そうすると、書いてみます、ということになる。文章の巧拙はあるものの、出てきた原稿には書き手なりのものの見方や感じ方が反映されている。この学生はこういうことを考えるようになったのかと、読みながら学生の成長に気づく。学生からも、自分の体験や気づきを文章にまとめられてよかったという感想が届く。

この時期いつも思うことだが、教育による「収穫物」をきちんと整理して保管する『とこはことのは』という貯蔵庫があるからこそ、このような双方向の振り返り活動が可能となる。そういう意味からも、この貯蔵庫の維持・管理・更新に尽力してくれる編集委員の教員や学生には大変感謝している。

2023 年度は、コロナ禍で休眠状態であった外国語学部の海外プログラムを全て再開することができた。またコロナ禍でも続けていた県内の各団体との連携活動や、オンラインの活動も概ね堅調である。さらに 2024 年度は、外国語学部創設 40 周年という節目の年になる。『とこはことのは』に貯蔵される収穫物の種類や量がさらに豊かになるよう、外国語学部の教職員と学生で励んでいきたい。

Ⅱ　外国語学部共通

１．教員エッセイ

日系カナダ移民の出身地を訪ねて

天野　剛至

筆者が参加している研究グループでは、第二次世界大戦前にカナダに移民した日本人（日系カナダ移民一世）の俳句活動について調査している[1]。経済的成功を夢見て太平洋を渡ったかれらの運命は、日本軍によるハワイ真珠湾攻撃によって暗転した。日本国籍者のみならずカナダに帰化していた日系一世およびカナダ生まれの二世までもが「敵性外国人」とみなされ、ブリティッシュコロンビア州沿岸部から同州内陸部の収容所に強制的に移動・収容されたのだ。約 13,000 人の日系人が十カ所の収容所に暮らしたが、財産を没収されたかれらにとって、当初は日々の食料や物資を自給することも容易ではなかった（和泉 2020: 98-104）。俳句の創作活動はそんな失意と過酷な環境にあってほんのささやかな娯楽であったが、「魂を生き生きと保つ」ための手段であり、「ひらめきを与えてくれる美しい自然への深い愛と感謝の気持ちの現れ」（Okawa）として、収容所ごとにいくつかの句会が形成されて一世たちを中心に楽しまれていた。筆者らは、主にこれらの収容所で俳句創作の中心的役割を果たした数名の日系カナダ移民一世にスポットライトを当て、かれらの生涯をたどり、かれらが詠んだ句から心情を探り、かれらを主体としたナラティブ（物語、語り）のかたちにまとめている。

そのうちのひとりに、竹田寅雄（とらお）（1902 ～ 1984）という男性がいる。寅雄は「静岡縣安倍郡○○村字（あざ）△△」の出身で、1919（大正 8）年にカナダに渡った。当時まだ 17 歳と若いことから単身で渡航したとは考えにくく、年長の親戚と一緒に移民した可能性が高いと思われるが、この辺りの経緯はよくわかっていない。寅雄は 1928（昭和 3）年ごろ、実家から目と鼻の先に住んでいた六歳年下の女性と結婚してカナダに呼び寄せている。強制移動命令前の 1942（昭和 17）年にはポートアルバーニ（Port Alberni）で製材工として働き、妻と二男二女の六人家族で慎（つつし）まやかに暮らしていた。一家はタシミ（Tashme）収容所に送られたが、寅雄

[1] 本研究は JSPS 科研費 22K00331 の助成を受けている。

は所内の句会「蝸牛吟社」の中心メンバーのひとりとして、「孤村」の俳号を用い、多くの句を詠んだ。柔道で鍛えたというがっしりした体躯に柔和な微笑を湛えた寅雄の姿を、アーカイブの写真で確認することができる。戦後はケベック州ファーナム（Farnham）に家族と一緒に移り住み、四男五女と孫 14 人に恵まれ、そこで一生を終えた。

この四月に本学に着任した筆者は、寅雄について調査していたところ、偶然にも彼が静岡の出身であることを知って実家を探しに出かけることにした。旧安倍郡は現在の静岡市全域に概ね一致する。現在も字の△△は残っているが、図書館で調べても旧住所を正確に割り出すことができず、探索は困難を極めた。それでもどうにか二カ所に絞り込むと、盛夏の八月某日、これらの住所を訪れることにした。

一軒目は、緑豊かな住宅地にあった。広い庭で家庭菜園をしていた男性に声をかけ、自己紹介をする。「カナダに渡った寅雄さんについて何かご存知か」と尋ねるが、親族の間で移民した人の話なぞ聞いたことがないという。「どのくらいこの地にお住まいか」と尋ねると、40 年ほど前に父親の代に引っ越してきたと教えてくれた。「近所のもう一軒の竹田さんはご存知か」と訊くと、「よくは知らないが親族の葬儀で顔を合わせるので、どうやら親戚関係にあるようだ」とのこと。筆者の話を聞いているうちに男性も興味をもったようで、礼を述べてお暇しようとすると、「あちらにもこれから伺うのか。何かわかったらぜひこちらにも教えてほしい」と送り出してくれた。

もう一軒は古くからの集落にあった。否応なしに期待が高まる。玄関の呼び鈴を鳴らすと、女性が顔を出した。筆者は自己紹介をして、「カナダに移民した男性の実家を探している」と告げると、その女性は即座に「寅雄さんのことですか？」と応じてくれた。興奮のあまり「そうです！」と答えた筆者の声が上擦った。その女性 A 子さんは暑い中にもかかわらず、しばらく筆者の質問に丁寧におつきあいくださった。A 子さんによると、彼女の父親と寅雄は兄弟の関係にあるという。つまり A 子さんは寅雄の姪にあたる。ただ A 子さんは幼いころに両親が相次いで亡くなり親戚に育てられたため、カナダに移民した寅雄の存在は知らされていたものの詳しいことまでは把握していないという。庭に回り、A 子さんは敷地の隅にある幹だけ残る枯れ木を見せてくれた。その木は古くからあり、父

親や寅雄が若いころにはまだ生きていて枝葉が茂っていただろうということだった。古木の傍らに立つ A 子さんの写真を撮り、後日カナダに住む寅雄の家族に送った。A 子さんにはもし寅雄の手紙などが見つかったら連絡してほしいと告げ、礼を述べて後にした。筆者はしばらく付近を散策し、寅雄が句作の際に脳裏に思い浮かべたかもしれない百年前の故郷の風景を想像しつつ帰路についた。

最後に、寅雄が晩年に詠んだ俳句を一句紹介して本稿を閉じたい[2]。

牧牛の笑みしを見たり風光る　　孤村

参考文献

和泉　真澄 (2020). 日系カナダ人の移動と運動 : 知られざる日本人の越境生活史 . 小鳥遊書房 .

Okawa, E. (n.d.). “Tashme poetry society” *Tashme: historical project*. [http://tashme.ca/everyday-life/tashme-poetry-society/] (Retrieved 17 December, 2023)

[2] 本句は 1983 年 8 月 16 日付邦字新聞 *The New Canadian* に掲載された（寅雄 81 歳）。

佐野富士子さんを偲んで

常葉大学学長　江藤　秀一

佐野富士子さんは 2016 年 4 月に本学外国語学部特任教授として着任された。前職は横浜国立大学大学院教授で、英語教育学の研究並びに教員養成に携わっておられた。また、東京学芸大学連合学校教育学研究科の教授として、横浜国大以外の多くの学生の指導にもあたっておられた。私も 2016 年 3 月に筑波大学を定年退職し、同年 4 月に本学外国語学部特任教授として着任したので、佐野さんとは同期であり、また同じような立場で入職したので、佐野さんとは当初からよくお話をさせていただいた。

佐野さんが大学院へ進まれたのは結婚後のことだったが、進学のきっかけは、佐野さんの話によると、いわゆるママ友達から子どもさんに英語を教えてほしいと頼まれたことからであった。佐野さんは英文学科の出身だったので、英語を教えることはできるだろうと軽い気持ちで引き受けたそうだが、人様に英語を教えるからにはもっと理論を学ぶ必要があると思ったそうである。そこで、当時から英語教育学の研究が盛んであった横浜国立大学大学院へ進学し、佐野さんの第二言語習得論に基づく英語教育学の研究が始まったのである。

大学院修了後、川村短期大学専任講師を 3 年間務めた後、1995 年から 2007 年まで駿河台大学の助教授及び教授を務め、2007 年 4 月から母校の横浜国立大学教授に就任し、2016 年 3 月まで勤務された。このような佐野さんの職歴から、佐野さんのたゆまぬ努力と旺盛な研究心がうかがわれるし、転職に伴う様々なご苦労が偲ばれる。

私は大学卒業後、常葉高校の英語教師を皮切りに長年英語教育に携わってきたが、専門は 18 世紀のイギリス文学である。従って、英語の指導法はもっぱら経験によるものであって、英語教育学という学問に裏付けられたものではない。一方の佐野さんは、第二言語習得論を深く研究し、その理論に裏付けられた英語教育を実践されていた。佐野さんは「いかに上手な教え方であっても、経験だけに頼っててはだめ。小手先だけの英語教育では学習者によい教育はできない。理論に裏付けされた実践こそが本当の英語教育になる」という趣旨のことをよく言わ

れていた。この点は佐野さんにはかなわないと常々思っていた。

佐野さんは研究の殻に閉じこもることはなく、第二言語習得に関する研究を目的として、1995 年 7 月に大学英語教育学会（JACET）の中に SLA（second language acquisition）研究会を組織し、研究を推進するともに、学会の理事として多くの若い研究者を育てられた。また、伝統ある英語教育協議会（ELEC）の英語研修ではライティングの講師も務められ、三省堂発行の高等学校用英語検定教科書も執筆されて、多方面にわたって学界に貢献されてきた。

本学に着任されてからも、新たに仲間となった若い先生方と本学の共同研究に応募され、英米語学科の研究活性化に尽力された。また、本学を会場として SLA 研究会を開催し、静岡県内の現職の英語教員にも英語教育に関する勉強会の機会を与え、英語教育を通して地域貢献活動も積極的に進められた。さらには、学内の紀要をはじめ、退職までの 5 年間に 7 本の論文と 2 冊の共著を出されている。特に『授業力アップのための英語教師必携自己啓発マニュアル』（開拓社、2019）では本学短期大学部の小田寛人副学長と監修役を務め、英語教師としての自己研鑽の方法や国際交流や各種検定試験の対応など、英語教員にとって有益な情報を満載した著作物も上梓された。この本には小田副学長以外にも本学関係者が数名執筆し、本学教員の研究推進に貢献していただいた。

英語教育学会には縁遠かった私も、2018 年 8 月に青山学院大学で開催された JACET International Conference では、幸田明子元本学教授ともども共同研究者の一人として名を連ね、“Teachers’ beliefs and learners’ success in learning English”というタイトルで研究発表の機会を与えていただいた。青山学院大学での研究会の前日、佐野さんとパワーポイントで発表用の資料を作ったが、帰りの電車の時間などおかまいなく、十分に納得するまで何度も何度もやり直すそのときの佐野さんの態度に、研究者としての凄みのようなものを感じたものである。

昨年 3 月の卒業式の日、佐野さんも会場に姿を見せていた。佐野さんはその前年に 5 年任期が満了となり退職されていたのだが、退職当時に 3 年生であった学生が卒業するということで、お祝いに駆けつけてくださったのだった。お元気そうで、またいずれお会いましょうと約束したところであったが、それから半年あまりの 10 月 16 日に、帰らぬ人となってしまった。退職後も常葉大学の紀要にも投稿したいという希望を述べられていた。いくつもの発表の場をお持ちのはずだ

が、さらに投稿を考えておられる、本当に旺盛な研究心をもった学者であった。惜しい人を早く亡くしてしまった。佐野さんには日本の英語教育のためにもっともっと力を発揮していただきたかった。今はただ、ご冥福をお祈りするばかりである。

教科書なるもの：Roberto Oest 教授を偲びながら

若松　大祐

我々は何かを知りたい時、そのことについて一通り説明している本を読もうとする。かつて私は大学生の時、論理学に関する教科書を挙げてほしいと指導教員に尋ねた。すると指導教員は、「図書館へ行き、自身の目に留まり読んでみようと思った本が教科書である」と答えた。論理（ろんり）と倫理（りんり）の違いもよくわかっていない私にふさわしい本と、アリストテレスの三段論法とバートランド・ラッセルの記号論理学の違いを知っている人にふさわしい本は、確かに異なる。

2024 年 1 月に故ロベルト・オエスト教授宅で書架を眺めていると、いくつかの本が目に留まった。いわば現在の私の研究にとっての教科書を、オエスト教授が持っていたことになる（以下、敬称略）。

ロベルト・オエスト（Roberto Horacio Egidio OEST）は、1935 年にアルゼンチンで生まれる。1962 年に来日し、東京外国語大学や東京教育大学で学ぶ。1987 年から常葉大学でスペイン語学の教師として教鞭を執る（2005 年 3 月まで）。洛陽の外国語学院（1991-1992 年）でスペイン語と日本語を、北京大学（2006-2009 年）でスペイン語を教えたこともある。日本に帰化し、東義仁（あづま・よしひと）と名乗った。

2015 年に私自身が常葉大学に着任した時、オエストはすでに退職していた。2018 年 2 月に同僚の三村友美（スペイン語学）から紹介され、私は神奈川県座間市在住のオエストを訪ねる。最初のあいさつは、中国語で行った。ちょうど北京大学のスペイン語教員（中国人）が 1 か月ほど自宅に居候していたため、オエスト、三村、北京大学の教員、そして私の 4 人が付近の中華料理店で昼食を食べる。後日、オエストを自宅に訪ね、書架を眺める機会を得た。また、自宅の壁には愛新覚羅溥傑の書が数幅飾ってあった。2023 年 6 月 1 日に逝去するまで、私は 10 回ほど自宅を訪ねる。オエストに自身の歩みを聞き、書きとろうとしていたものの、ほとんど果たせなかった。

2024 年 1 月に主人のいない書斎と書庫で、数時間を過ごした。蔵書からはオ

エストの研究関心や人柄が伝わってくる。

まず、オエスト本人が日本文学や日本語学の研究者であったため、日本文学や日本語に関する書籍が多い。辞書や叢書といった基礎的な工具書も多い。周囲の人間をして「猥談をできる」と言わしめるほどの不自由ない日本語能力は、こうした書籍が作り上げたのだろう。

次に、アルゼンチン出身であり、職務の必要から、スペイン語に関する書籍も多く、日西の両言語をまたぐ内容の書籍が目立つ。20 世紀後半に出版されたスペイン文学の日本語訳や、日本文学のスペイン語訳がある。

そして、日本や中国という地域に関する書籍がある。歴史、宗教、文化、社会に関する内容が多い。愛新覚羅溥傑と交友があったため、清朝や満洲族に関する書籍もある。

それから、高島俊男『お言葉ですが…』のシリーズは愛読書だったという。『本が好き、悪口言うのはもっと好き』という書名に、オエスト本人はいたく共感し、そこらへんで悪口を言いまくっていたくらいである。悪口はオエストにとって、単なる口撃だけでなく、不合理なことへの批判であった。

20 世紀の批判的な哲学の一つにマルクス主義が挙がる。しかし、オエストの書架にマルクス主義に関係する書籍はほとんど見当たらない。「ない」といえば、日本語の隣人にあたる朝鮮語やアイヌ語の関係書籍も書架になかった。それから、キリスト教に関係する書籍がないのは、本人が無神論者だったからだろう。

ここまでオエストの蔵書の「ある」と「ない」について、書いてきた。いずれも私自身の関心に基づく「ある」と「ない」である。私自身の関心が変われば、「ある」と「ない」の境界線がずれるだろう。

私は 2021 年 10 月に長崎県平戸市を訪ねた。鄭成功（1624-1662）は台湾研究という領域で重要な歴史的人物であり、平戸には鄭成功記念館がある。私が平戸へ行く直前、オエストに平戸のことを話すと、オエストは「チンシンリュウ」とか「ブケチャ」とか「マツラケ」とか「カスドース」とか言って、平戸で見るべきところを私に紹介した。私はちんぷんかんぷんであった。その後、私もようやくわかり、こうした単語はそれぞれ「鎮信流」、「武家茶」、「松浦家」、「カスドース」であり、平戸の歴史を語る上で必須の専門用語ばかりだった。オエストは旧平戸藩の現当主と懇意にしていたため、平戸の歴史に関する書籍を持っていたの

である。2024 年 1 月に私が書架を眺めていたら、『平戸和蘭商館跡の発掘 III；鄭成功居宅跡の発掘』[1] や『平戸の対外貿易時代の話』[2] が目に留まった。いずれも最近の私の研究にとっての教科書であり、私はようやく 2023 年にその存在を知り、がんばって収集した資料だった。

オエスト教授宅は、近く取り壊すという。その前に、蔵書を必要としている人々のところに届けなければならない。私も手伝うことになった。しかし、2024 年 1 月現在、私に当てはない。

---

[1] 平戸市教育委員会（編）『平戸和蘭商館跡の発掘 III；鄭成功居宅跡の発掘』〔平戸市の文化財 34〕（平戸：平戸市教育委員会、1992 年 3 月）。

[2] 葉山万次郎 (談)、松浦史料博物館 (編)『平戸の対外貿易時代の話』(平戸：松浦史料博物館、1961 年)。

２．外国語学部コロキウム

2023 年度外国語学部コロキウム

外国語学部言語文化研究会は、今年度もコロキウム（Colloquium）を主催した。その目的は、外国語学部教員が自身の教育研究活動の一端を発表して、外国語学部教員同士で関心を共有し、今後の外国語学部の教学へ活用しようと目指すところにある。参加者については主に外国語学部教員を想定しつつ、大学ホームページなどを使って学内外からの参加を広く呼びかけている。2023 年度は 3 回開催できた。新任教員と退任教員による研究発表である。ただし、外国語学部専任教員の他に参加者が数名しかなかった。来年度は、例年のように前後期にそれぞれ１回ずつ開催し、より多くの参加者の来聴を願いたい。

なお、第 2 回と第 3 回にはコロキウム終了後に懇親会を開催した。コロナ禍のために休止していたものを、ようやく 4 年ぶりに再開したことになる。（若松大祐）

第 1 回

日　時：2023 年 5 月 31 日 (水) 15:10 ～ 16:20

会　場：草薙キャンパス A 棟 3 階 A309 教室

講　師：天野 剛至（英米語学科・准教授）

演　題：アジア系アメリカ児童文学にみるトランスナショナルな語り
－時間的・空間的・精神的〈中間〉における自己（再）表象－

要　旨：　本報告では、発表者がこの数年間にわたって取り組んでいるアジア系アメリカ児童文学のトランスナショナルな諸相の分析について、特に文学作品に登場する〈穴〉の表象に焦点を当てて紹介した。

まず、トランスナショナル（児童）文学を分析する際の理論的枠組みを概説した。ホミ・バーバは、「〈中間の〉空間」を、「差異の領域が重なりあったり置き換えられたりする」可能性を秘めたメタフォリカルな空間ととらえ、マイノリティの主体性が（再）構築される戦略の場であるとみなした。また、ヴィクター・ターナーは「リミナリティ」論において、日常生活の規範から逸脱した「境界にある人たち」の曖昧でどっ

ちつかずの過渡的状態にこそ通過儀礼が特徴づけられると考えた。これら二論に基づいて、トランスナショナルなカミング・オブ・エイジが、文化横断的な「水平のリミナリティ」と少年少女から成年へと移行する時間縦断的な「垂直のリミナリティ」の二重のリミナリティにおいて展開するという独自の理論的枠組みを示した。

次に、トランスナショナル児童文学のうち、主人公が〈穴〉に遭遇し、そこでかれらのアイデンティティが主体的に再構築される四作品を挙げて、メタファーとしての〈穴〉が何を表象しているか、どのような意味をもつのかを時間・空間・精神の三つの異なる視角から分析した。なお、ここでの〈穴〉とは、手掘りの小穴、洞窟、坑道、シェルター、空井戸などさまざまな閉鎖空間を広義にとらえたものを指す。

第一に、〈穴〉は過去と現在をつなぐ「時間的〈中間〉」のメタファーである。ルイス・サッカーの *Holes*（1998）は、主人公スタンリーとそのラトヴィア出身のユダヤ系家族の物語であり、穴を掘るという行為がその地に起こった過去の数々の出来事を掘り起こすことと同義になっている。物語では穴掘りを通じて世代を超越して相互に足りないものを補完し合う関係が成立し、先代の負の遺産が後代に正の遺産へと変換される。一方、タィンハ・ライの *Listen, Slowly*（2015）は、第二世代のヴェトナム系アメリカ人少女マイが、ヴェトナムでひと夏を過ごしていく過程で文化横断的なアイデンティティを獲得していく物語である。マイにとって“祖国”ヴェトナムへの旅は、これまで遠ざけてきた自身のルーツであるもう一つの文化に近づく道程である。物語終盤で祖母・父と一緒に訪れる地下トンネルの壁に刻まれた亡き祖父のメッセージは、自身と祖父母の断片的な経験を結びつける時間的〈中間〉の記号として機能する。

第二に、〈穴〉は日常的な「支配的な語り」と非日常的な「対抗的な語り」の間で文化的な折衝が展開される「空間的〈中間〉」の表象である。マデリン・ローゼンバーグとウェンディ・ワンロン・シャンの合作 *This Is Just a Test*（2017）では、ユダヤ系の父と中国系の母を持つ主人公デーヴィッドのエスニック・アイデンティティがタイトル通り試さ

れる。デーヴィッドはクラスの人気者スコットから核シェルターを掘るのを手伝うように頼まれるが、デーヴィッドは次第にスコットの自己中心的な態度に怒りを覚えるようになり、ついには彼を突き放す。この作品に登場する核シェルターは、白人中心の文化ナショナリズムという「支配的な語り」と抑圧されたマイノリティが自らを解放すべく異議を申し立てる「対抗的な語り」が折衝する〈中間〉の表象として捉えることができる。

第三に、〈穴〉は現実と幻想、意識と無意識が交差する「精神的な〈中間〉」である。エリン・エントラーダ・ケリーの *Hello, Universe*（2017）では、フィリピン系アメリカ人の主人公ヴァージルが暗闇の空井戸の底で現実と幻想が交差する虚構世界のうちにアイデンティティを（再）形成するさまが描かれる。同作品では〈穴〉が脱領域的な意識の表象となっており、客体化され抑圧されてきた自己の主体化およびエンパワメントへの希求が主題となっている。

以上の通り、〈穴〉はエスニック・マイノリティの（前）思春期の少年少女が自身の主体性を世代縦断的、文化折衝的、脱領域的に再構築する「戦略の場」のメタファーであると結論付けた。

（注）：本報告は、第 52 回英語圏児童文学会研究大会（2022 年 11 月）における口頭発表の内容ならびに英語圏児童文学会会報 2023 年春季号（pp. 15-16）に掲載された報告要旨に一部修正を施したものである。

第 2 回

日　時：2023 年 11 月 29 日 (水) 15:10 ～ 16:30

会　場：草薙キャンパス B 棟 3 階 B307 教室

講　師：坂本 勝信（グローバルコミュニケーション学科・教授）

演　題：やさしい日本語

－小中学校の教職員対象の研修会における実践を例に－

要　旨：　日本語力の問題で外国人児童生徒の将来が狭められないように学校のできることの一つに、教員や職員がやさしい日本語を身につけることが

ある。年に２回浜松市内の学校を回って実施している研修会の内容を、本コロキウムにて受講者が体験する。報告者にとっては、今後の研修会の在り方を探るためのヒントを得る貴重な時間となった。

第３回・退職記念講演

日　時：2024 年２月７日 (水) 10:45 ～ 12:15

会　場：草薙キャンパス A 棟３階 A306 教室

講　師：戸田 勉（英米語学科・特任教授）

演　題：イギリス小説…ジョイス・イシグロ

要　旨：　40 年間の研究の流れをたどりながら、以下の３つの研究における気づきと原点となる研究を紹介した。

1. イギリス小説研究

イギリスの小説を専門とし、小説を読み進めるにつれ、イギリス社会を理解するにはその根底に根付く階級を理解しなければならないことに気づいた。特に、イギリス文化が生まれる母体となった中流上層階級、所謂「紳士階級」の生活感覚や価値観を学ぶことによって、イギリス文化の独自性に対する理解を深めることができた。

2. ジェイムズ・ジョイス (James Joyce、1882 ～ 1941) 研究

『ユリシーズ（*Ulysses*）』（1992）の第８挿話で用いられた技法「蠕動運動」をパラグラフの長短を用いたリズムであることを指摘し、文学の領域を越え、視覚芸術に踏み込んだジョイスの斬新な芸術性を紹介した。

3. カズオ・イシグロ（Kazuo Ishiguro, 1954-) 研究

初期の短編「ある家族の夕餉 (“A Family Supper”)」(1981) を取り上げて、イシグロの小説全体に通底する「語りの今」の問題について考えた。家族と一緒に夕食を食べた記憶を淡々と綴る語り手の「語りの今」を前景化させることによって、そこに父との対立と和解のテーマが編み込まれていることを指摘した。

3．外国語学部文化講演会

2023 年度外国語学部文化講演会

常葉大学外国語学部言語文化研究会では、毎年、文化講演会を開催している。目的は、21 世紀を迎えグローバリゼーションが常態化する今日、参加者が外国文化や多文化共生について理解を深めるところにある。2023 年度は例年と異なり、2 回開催できた。

第 1 回

日　時：2023 年 7 月 12 日（火）16 時 45 分 -18 時 15 分

会　場：静岡草薙キャンパス B201 教室

講　師：小倉優子（タレント）

題　目：今だからわかる大学で身につける教養の大切さ

要　旨：　小倉優子氏はタレントで今年の春に白百合女子大学に入学した。小倉氏の大学入学は、テレビの企画から始まったのもので、大学に入ること自体が目的だったという。ところが、その過程である変化が生まれ、小倉氏は大学で学ぶことの意義に気づく。

小倉氏は、芸能界の第一線で活躍してきた社会人として、また 3 人の子を持つ母として、改めて気づいた大学で学ぶことの意義について、そして、与えられた環境で精一杯努力することの大切さについて熱心に語った。

講演会当日は草薙キャンパスの学生と教職員を合わせて 200 名ほどの聴衆が集まった。小倉氏の大学受験の英語の先生は、本学の非常勤講師の牧野智一氏だった。その縁もあって、このたびの講演を、牧野氏との対話形式で進めた。牧野氏の軽妙なリードと小倉氏のポジティブで明るいチャーミングさに魅了された 90 分間になった。

第２回

日　時：2024 年 1 月 9 日（火）15 時 00 分 -16 時 30 分

会　場：静岡草薙キャンパス B201 教室

講　師：サリータ・バディ

題　目：バディ族に生きる

要　旨：　ネパールにおけるカースト制は、1959 年の憲法で廃止されてからも実生活において今なお存在し、少数民族が迫害を受け続けている。その被差別民族であるバディ族に生まれたサリータ・バディ氏と その支援をする NPO 法人代表ウィリアムズ・ゆり氏が、彼らの受けてきた差別や過酷な人生とそれらに立ち向かってきた軌跡とについて解説した。

サリータ氏は、日本人がいかに恵まれた環境に置かれていること、また教育の大切さや強く気持ちをもち、努力すれば必ず何かを成し遂げられることなどを話した。質疑応答では、参加した教職員だけでなく学生からも質問があがり、学生たちは終始サリータ氏の話に熱心に耳を傾けていた。

ネパールのバディ族を支えるNPO法人ゴスペルエイドの取り組みを通した学生の学び

宮腰　宏美

ネパールにおけるカースト制は、1959 年の憲法で廃止されてからも実生活において差別が続いており、「バディ族」は実生活において、カーストの最下層の「ダリット」の中でも更に最下位に位置付けられている (藤倉 , 2022)[1]。バディ族が数百年前に北インドから移住してきた当時は、西部ネパールの小王国で、踊り子や歌い手として宮廷や大地主に仕えていたが、カースト制度により職を失ったことで、売春を業とするようになり、不可触民として社会的な侮辱を受けている (藤

[1] 藤倉康子「ネパールのダリット女性と暴力」『国際人権 NGO 反差別国際運動』、https://imadr.net/books/192_2/ (2023 年 12 月 15 日最終閲覧)。

倉 , 2022)[2]。2010 年にネパール政府は「売春の仕事を禁ずる」通達を出したが、バディの人々には代替の仕事がなく、砂利集めや軽作業でわずかな収入を得ている状況である (青木 , 2022:Gospel Aid, 2018)[3]。

この見えない差別は、自己努力による生活の改善を困難にしている。そこで、NPO 法人ゴスペルエイドは、バディ族の子どもや女性の救出、救出された人々が集うゴスペルホームの設立、ゴスペルホームの経済支援及び人材育成の支援や現地スタッフがネパールで買い付けたコーヒー豆の日本への輸入、販売などを行っている (Gospel Aid, 2018)[4]。ゴスペルエイドのスタッフらは、設立したゴスペルホームで愛情と教育の機会を得て育ったバディ族の子どもたちがやがて自立し、コミュニティを支えることができるようになることを目標に活動している (Gospel Aid, 2018)[5]。

2022 年度に他大学において、同法人の現地スタッフであるシータ・バディ氏に講演を頂き、学生の学びについて調査を行ったところ、世界が抱えている問題への関心、国際社会の現状についての知識および国際的な視野の広がりについて、一定の効果を確認することができたとともに、シータ氏が見えないカースト制の下、差別を受け続けてきたが逆境に立ち向かい、現地の子どもを救いながら、「カースト制度」のイメージそのものを変えようと努力を続けている姿から学びを得ることができたことを確認した (宮腰 , 2023)[6]。

常葉大学の合言葉は「Beyond the Limits」（＃できないことなんてない）である。学生による、「Limits」の捉え方はそれぞれであるが、NPO 法人ゴスペルエイドの販売機関である NPO 法人バディカフェの代表ウィリアムズ・ゆり氏と、現地スタッフのサリータ・バディ氏のバディ族の生活やサリータ氏の講演を

---

[2] 前掲注 1。

[3] 青木千賀子 (2022)「持続可能な社会開発とエンパワーメントをめざして―ネパールのダリット女性グループの活動事例から―」『公益財団法人東海ジェンダー研究所　ニューズレター LIBRA』、(75)、p.2。Gospel Aid「私たちの働き」https://gospel-aid.org/work/（最終閲覧日：2024 年 1 月 14 日）。

[4] Gospel Aid「ファンドレイズ」https://gospel-aid.org/campaign/（最終閲覧日：2024 年 1 月 14 日）。

[5] Gospel Aid「ビジョン」https://gospel-aid.org/vision/（最終閲覧日：2024 年 1 月 14 日）。

[6] 宮腰宏美 (2024)「教職・保育職を目指す学生に SDGs の活動実践を行なった際の学生の学びについて　―岡崎市にある NPO 法人ゴスペルエイドのネパール現地スタッフとの交流を通して―」『岡崎市　地域活性化研究』(22)、pp.95-105。

通し、学生の「Limits」の捉え方の変化に期待した。

また、講演においては、SDGs についても考えさせる良い機会である。現在の大半の大学生は、中学、高校時代に SDGs について学んでいる。しかし、大学における学びの中で SDGs の学びの継続については、其々の大学や専攻次第である。しかしながら、就職において、現在の大学生は、SDGs 重視の傾向があると言われており、IDEATECH が 2022 年に行った、卒就活生の SDGs に関する意識調査では、調査対象となった 509 名のうち、5 人に 1 人が就職先企業を選ぶ上で「SDGs に対する姿勢や取り組みを重視している」と回答している (PR TIMES Inc., 2023)[7]。理由として、「将来性のある企業だと判断できる：54.6%」「企業イメージが良く、親しみが持てる：47.4%」「企業の社会的役割を重視したい：46.4%」が挙げられている (PR TIMES Inc., 2023)[8]。筆者が所属する学科は英米学科であるが、学生が就職するにあたり、SDGs についての認識が必要な時代となってくるならば、SDGs を大学生活において意識させることも必要であると考える。更に、SDGs を考えることは、自分以外のことを考えられる人を育成するという意味において重要である。

この報告書作成のため、無記名かつ任意の質問紙調査を講演後に行った。被回答者は、英米語学科 1 年生 81 名であり、回答した全員が質問紙調査の結果を報告書に使用することについて「同意する」と回答している。

質問項目 1:「今回の講演を聞いて、常葉大学の合言葉「Beyond the Limits」(#できないことなんてない) の印象が変化したか」に関して、「印象が変わった」と回答した学生が全体の 96.3％ (n=81) であった。変わった理由（質問項目 2）としては、「サリータさんのお話を聞いてなんでも挑戦してみないと分からないと思ったから。」「話を聞いてできないことを諦めるのではなく、チャンスさえあれば、挑戦していくことが大切だと思いました。」「差別、環境のせいにせず少しでも可能性があるのならチャンスを自分の手で掴み、とりあえず挑戦するというのがとても印象的でした。」「バディ族の方のお話を聞いて本当に苦しい状況にも

[7] PR TIMES Corporation「24 卒就活生の 77.8% が「SDGs」について認知、5 人に 1 人が「企業の SDGs への取り組み」を企業選定軸でも重視」https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000065.000045863.html（最終閲覧日：2024 年 1 月 14 日）。

[8] 前掲注 7。

関わらず、その限界を超えて大きな挑戦をして努力をしている姿に感動し、人間にできないことなんてないということが認識できたからです。」などが挙げられた。テキストマイニング (ユーザーローカル , 2022)[9] で分析したところ、出現頻度の最も高い順番（名詞）に「挑戦 (24)」「1 チャレンジ (17)」「環境 (15)」「チャンス (14)」「限界 (13)」となった（( ) 内は、出現数を表している)。サリータ氏自身が置かれている環境のせいにせず、チャンスがあれば挑戦し、努力し続けている姿から学びを得ていたものと考えられる。

今回の講演を聞いてもっと知りたいと思ったこと (質問項目 3) については、バディ族について、カースト制度について、ネパールについて、またほかの国における同じような差別の例について更に詳しく知りたいという回答が多く見られた。テキストマイニングからは、名詞の出現頻度が多い順に「バディ (30)」「ネパール (27)」「族 (26)」「カースト制度 (15)」等であり、形容詞では「詳しい (10)」、動詞では「知る (37)」であった。「支援の方法を知りたい」という意見も散見されており、知識を広げるだけでなく、自分事として捉え、積極的に動こうとしていることが伺われた。

サリータ・バディ氏の講演を聞いて、SDGs のどの項目について関心が増したか (質問項目 5) について、一人一項目だけ選んでもらったところ、「10. 人や国の不平等をなくそう」が 33 と最も多く、次いで「4. 質の高い教育をみんなに」が 16、「1. 貧困をなくそう」が 10 であった。その他、「16. 平和と公正をすべての人に (8)」、「3. すべての人に健康と福祉を (5)」、「5. ジェンダー平等を実現しよう (4)」、「2. 飢餓をゼロに (2)」、「17. パートナーシップで目的を達成しよう (1)」、「6. 安全な水とトイレを世界中に (1)」、「8. 働きがいも経済成長も (1)」を選んでおり、今回の講義を通して学生に様々な視点を投げ掛けることができたことが考えられる。

今回の講演を受けた学生の感想をテキストマイニング（ユーザーローカル ,2024）したところ、頻出頻度の多い名刺は順に「カースト制度 (61)」「バディ (53)」「差別 (48)」「ネパール (48)」「日本 (43)」「サリータ (43)」「族 (39)」「生活 (35)」「挑戦 (32)」「行動 (19)」となり、形容詞は「良い・いい (31)」「強い (24)」「すご

[9] ユーザーローカル「AI　テキストマイニングツール」https://textmining.userlocal.jp/

い (18)」であった。具体的な学生の感想としては、「ネパールのこのような現状を、今日お話を聞くまで全くというほど知らなかったので、もっと世界の状況を知る必要があると感じました。（省略）」「サリータさんとお姉さんのようなチャレンジ精神と諦めずに向上心を持ち続けること、おなじ部族の子供たちの未来のために努力し続ける思いを見習わなければならないと感じた。未来の子供たちに同じ苦しい思いをさせてはいけない、自分たちでこの差別を終わらせなければならないと考え活動しているお二人と、支援団体の方々の強い使命感にとても驚いた。思いやりだけでなく、つらさを知っているからこその強い思いを感じ、自分もそのような強い意志をもって努力できるものを見つけたいと思った。」「今日の講演は様々なことを深く考えさせられるいい機会になったと思います。まず、自分自身を振り返ることができました。（中略）自分自身を振り返り、いい環境で学ぶことができることに感謝をしなければいけないと思いました。（中略）SDGs などの活動が多くの場で行われており、以前より活動が活発だなと感じていたが、まだ全然世界をみると改善すべき点が多くあると気付きました。（省略）」「（省略）私たち学生は直接支援することはとても難しい。しかし、少しでも支援することができるならしたいと思った。」等、学んだだけでなく、何か自分にできることを探す等の前向きなコメントが記されていた。

文部科学省 (2024)[10] は、海外留学が難しい状況が続いることから、オンラインでの国際交流や外国人の招致を通し、同世代の若者が交流を深めることで、異文化を理解し、広い視野を持つことを促進している。コロナが落ち着いてきたものの、円安により学生が簡単に渡航できない状況が続いていることから、今後もできる限り、学生と同世代の外国人の招致による異文化理解の機会を与えていきたいと考える。

[10] 文部科学省「高校生の留学等を通じたグローバル人材育成のための取組（文部科学省予算事業）」https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323960.htm（最終閲覧日：2024 年 1 月 17 日）。

４．特別研究の題目

英米語学科 卒業研究 題目一覧

石川芳恵研究室

栗田　奈緒　　小学校英語教育における CLIL 授業の可能性

小池理恵研究室

志田　菜摘　　歌詞から見る日本と北米の恋愛心理とコミュニケーションの違い－片思いの相手と親密性を高める方法－

村松　優（共著）

平山　七虹　　昔話が読者に伝えたいこと～異類婚姻譚を読みかえす意味を探る～

柴田里実研究室

青木　大和　　学校英語教育へのスムーズな英語多読導入とは：Buddy Reading を通したブッククラブ

伊奈　汐梨　　中学時代の英語科授業を想起させる振り返り調査：日本人英語教師の音読の効果とは

枝本　佳奈　　言語学習における先延ばし行動の分析と対処法の提案

小林　那菜子　　Vlog タスクは英語のスピーキング能力を向上させるのか

野﨑　絢名　　英語学習成功事例からの学びと英語学習方法の提案：Yagi（2023）のリプリケイト研究の試み

星野　佑奈　　中学生の英語授業内不安とは : 中学生を対象としたインタビュー調査

町田　晃啓　　軽度な有酸素運動は英語発信力にどのような影響を与えるのか : 創造性に焦点を当てて

山地　真緒　　英語学習者は ChatGPT を効果的に活用できているのか

戸田勉研究室

野中　明莉　　ビートルズの魅力を探る

水野　瑶生汰　　英国紅茶文化の研究

山口　亜純　　The Crown を通してみるエリザベス 2 世像

山田昌史研究室

平岡　優希　　『天気の子』で見る日本語と英語字幕の違い

三澤　結香　　ディズニーソングの日英比較－体験的把握と分析的把握の観点から－

良知惠美子研究室

稲垣　沙恵　　外国にルーツを持つ児童のアイデンティティー形成について－フィリピン国籍女性へのインタビューにおいて－

小野田　桂斗　　アウトプット量がスピーキングに対する自己効力感に与える影響

杉山　萌美　　やりとりのある読み聞かせが大学生のコミュニケーション力に与える影響

原田　真菜　　学習言語の背景文化の取り込みがスピーキング学習に与える影響

グローバルコミュニケーション学科特別研究

共同翻訳文献およびサブ・レポート題目一覧

中国特別研究

担当　戸田　裕司

《共同翻訳文献》

原題：那志良《我与故宫五十年》（黄山书社，2008 年）

《サブ・レポート題目一覧》

20122011　遠藤　純夏　「台湾と日本の女性の政治参加の比較－日本に女性首相は誕生するのか」

20122016　蒲谷　亜美　「アニメから見る中国社会～映画『THE FIRST SLAM DUNK』大ヒットから紐解く中国アニメ社会～」

日本語教育特別研究

担当　谷　誠司

20122030　新保　柚季　「『謙虚』と『卑屈』の分析」

20122041　大長　優斗　「ラッパー ZORN の曲における韻の子音分析」

韓国特別研究

担当　崔　慶原

《共同翻訳文献》

原題：박태웅『눈 떠보니 선진국』한빛비즈 , 2021

《サブ・レポート題目一覧》

20122021　倉島　あい子　「韓国芸能人を自殺に追い込む悪質リプライへの対応—大型検索ポータルサイト NAVER•Daum を中心に」

20122039　関　晴香　「韓国における大学入試改革の模索—大学入試改編公論化委員会の議論を中心に」

ブラジル / ポルトガル特別研究

担当　江口　佳子

《共同翻訳文献》

原題：Ana Maria Machado, *Do outro lado tem segredos*, São Paulo, Companhia das Letrinhas, 2019

《サブ・レポート題目一覧》

20122014　奥田　琉華　「映画に描かれたリオのカーニバル」

20122048　深澤　拓郎　「ゴールキーパーにおけるブラジルらしさはなぜ消えゆくのか？」

20122053　増田　倫子　「民話からわかるブラジル文化」

20122057　水口　奈々子　「ブラジルの歴史地区から見えるポルトガルの影響」

20122063　望月　玲乃　「アマゾンの先住民族を取り巻く環境」

20122065　森下　莉紗　「ブラジル社会で生まれたボサノヴァ」

スペイン・ラテンアメリカ特別研究

担当　増井　実子

《共同翻訳文献》

「融和か分断かースペイン社会の諸相を読み解く」をテーマに、スペイン日刊紙エル・パイス（El País）インターネット版の記事を翻訳し、解説を試みた。

《サブ・レポート題目一覧》

20122006　伊藤　龍之助　「バスク地方の魔女狩り～キリスト教社会から見たバスク地方と森のイメージ～」

20122023　黒沼　マユミ　「バスク地方とバスク語～ 19 世紀から現在まで～」

20122061　村山　天音　「スペイン内戦を取り巻くプロパガンダ～共和国陣営ポスターと日本の新聞報道より～」

20122062　望月　愛　「スペイン語使用から見るフィリピンの歴史～植民地時代から現代まで～」

グローバルコミュニケーション学科　特別研究　サブレポート報告会
2023 年 1 月 16 日（火）に実施した。
B305　スペイン、韓国
B306　ブラジル・ポルトガル
B307　日本語教育、中国

５．学内外での教職員や学生の取り組み

合同ゼミナール

若松　大祐

2023 年 7 月 1 日 (土) と 2 日 (日) の 2 日間にわたり、2023 年度第 8 回常葉大学・南山大学・立命館大学合同ゼミナールを実施しました。本学からは外国語学部グローバリゼーション学科の学生 1 名の参加がありました。

大学	引率教員	学生
常葉大学　外国語学部	若松大祐	2 年生 1 名
南山大学　外国語学部	宮原佳昭	3 年生 12 名
立命館大学　文学部	宮内肇、向静静	3 年生 5 名

このゼミナールの主旨は、東アジアについて関心のある学生が自らの関心をより深め、同時に新たな分野への関心を持つように試みるところにあります。そのために、参加者は自らが持つ疑問の解明に接近すべく、関係する書籍を取り上げて得られた答案を発表します。また、他の参加者の発表を聴いて質問し、議論を展開します。今年度は、斎藤淳子『シン・中国人』（ちくま新書、2023 年）に即して発表を行いました。

[1 日目] 7 月 1 日㈯	12:00 ～ 13:00	準備、昼食、自己紹介
	13:00 ～ 14:30	グループワーク 1： 課題図書をどのように読んだのか
	14:50 ～ 17:30	グループワーク 2： グループでの研究計画を立ててみる
	18:00 ～ 20:00	懇親会
[2 日目] 7 月 2 日㈰	9 :00 ～ 10:00	グループ発表の準備
	10:05 ～ 12:00	グループ発表
	12:00 ～ 16:50	静岡市内や周辺を散策
	16:50	静岡駅新幹線改札口にて解散

Ⅲ　英米語学科

１．高校生対話弁論大会

第 39 回静岡県高等学校英語対話弁論大会報告

『常葉大学主催・静岡県教育委員会後援 第 39 回 静岡県高等学校英語対話弁論大会 (The 39th Shizuoka Prefectural Inter-High School English Dialogue Speech Contest)』が、11 月 18 日（土曜日）静岡草薙キャンパスにて開催されました。

本大会は、静岡県教育委員会の後援を頂き、英語教育を支えてきた行事の一つでもあります。令和 5 年度は、コロナ禍での制限も緩和されたことに加え、従来の二部制から一部制に統合し、時間制限を 4 分として実施する初めての大会となりました。12 組 24 名が参加し、それぞれオリジナルのスキットを披露しました。本学外国語学部主催、静岡県教育委員会後援の大会は、二人一組での対話形式で行うのが特徴で、出場生徒たちは日常生活における問題意識を反映したオリジナルのスキットを、身振り手振りを交えながら披露し会場を沸かせました。コロナ対策のためアクリル板やマスクの着用など、例年とは異なる苦労もありましたが、小道具や衣装を駆使し、躍動感のあるスキットを見せてくれました。

本大会は、外国語学部創設時から毎年行われており、令和 6 年度は創設 40 周年を迎える外国語学部と共に第 40 回を迎えます。

大会結果

優　　勝	“Peer Presseure”　Ms. S. R. Munsayac + Ms. R. Rodel 静岡県立浜松江之島高校
準　優　勝	“The Challenge”　Mr. L. Oshio + Mr. E. Pascal 静岡県立浜松江之島高校
第　3　位	“Living with Foreign People”　Ms. A. Miura + Ms. K. Deguchi 静岡県立掛川西高校

令和 5 年度の大会は、英米語学科の 1 年生から 3 年生までの学生スタッフたちによりサポートされました。モデル・スキット（“Student Loans”）、学部長による歓迎の言葉の通訳、MC をはじめ、授業で培った英語運用能力を十分に発揮しながら、円滑な大会運営をサポートしてくれました。

【英語学科学生スタッフ】
MC 池田　真理奈・影山　和也（3 年）
通訳　山下　龍之介（3 年）
モデル・スキット　草薙　千奈・西本　かれん（3 年）
受付　岡田　直美・森本　美怜（3 年）・金　桃圭（1 年）
会場　林　遥樹・森永　太陽（1 年）

【教員スタッフ】英米語学科
小池　理恵（大会責任者）、 良知　惠美子、佐藤　由美、天野　剛至、
Steve Urick
【審査員】英米語学科
Robert McLaughlin、Peter Hourdequin、Steve Urick

Ⅳ　グローバルコミュニケーション学科

１．海外事情談話会（GC 学科コロキウム）

2023 年度海外事情談話会

若松　大祐

グローバルコミュニケーション学科では有志の教員を中心にして、毎月、海外事情談話会の開催を目指している。いわばグローバルコミュニケーション学科のコロキウムである。そもそもは、学内共同研究「外国語学部グローバルコミュニケーション学科の教学内容の向上のための比較地域研究」（平成 27 (2015)-29 (2017) 年度）の一環として、2017 年度より始まった。目的は、学科教員が近年の研究内容や出張内容を報告し、自身の関心を参加者と共有するところにある。2017 年度は 5 回、2018 年度は 3 回、2019 年度は 1 回、2020 年度は 2 回、2021 年度は 4 回、2022 年度は 3 回というふうに実施してきた。

2023 年度は谷誠司学科長のイニシアティヴの下、2 回開催できた。前期（春学期）に 1 回、後期（秋学期）に 1 回の開催である。来年度は、より多くの教員によるより多くの発表のあるのを期待したい。

第 1 回
日時：2023 年 7 月 5 日（水）17 時 00 分から 17 時 30 分まで
会場：静岡草薙キャンパス A523 室
講師：若松大祐（グローバルコミュニケーション学科・准教授）
題目：『鄭将軍成功伝碑』と『鄭延平王慶誕芳蹤』について
要旨：　本報告は、『鄭将軍成功伝碑』（1850 年）と『鄭延平王慶誕芳蹤』（1856 年）の関係について検討する試みである。その上で、両者の持つ意義を台湾地域研究の歩みの中に位置付けたい。なお本報告は、2023 年 8 月 22 日（火）に静岡県立大学グローバル地域センターが主催する国際シンポジウム「19-20 世紀の東アジア世界をめぐる学知と交流」での発表の予行演習である。

第 2 回

日時：2023 年 12 月 6 日（水）17 時 50 分から 18 時 15 分まで

会場：静岡草薙キャンパス A305 室

講師：若松大祐（グローバルコミュニケーション学科・准教授）

題目：『日華文化交流史』の新装復刊に際しての解説

要旨：　木宮泰彦『日華文化交流史』（冨山房、1955 年）は、有用であるにもかかわらず、長らく絶版の状態にあり、新たに日本史（特に対外関係史）を研究しようとする人々にとって、不便な状態が続いていた。しかし、吉川弘文館が同書を 2024 年 1 月に新装復刊する運びとなった。新装版は若松の撰する解説を収録する。そこで、このたびの海外事情談話会では、解説「基礎的な日本歴史の話:『日華文化交流史』への評価をたどる」の内容を、参加者とともに検討する。

2．多言語レシテーション大会

第 10 回多言語レシテーション大会

若松　大祐

多言語レシテーション（暗唱・朗誦）大会が、2023 年 12 月 16 日（土）に本学静岡草薙キャンパス A 棟 2 階 A201 教室で開催されました。目的は、古今東西の詩歌を詠みあげて、その詩歌を生み出したその時その場所を、今ここ静岡に再現することにあります。大会で登場した詩歌はいずれも、それぞれの言語が持つ時間の長さと空間の広がりとを私たちに伝えてきたことでしょう。

この大会は、常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科が主催するものです。そもそもは外国語学部創設 30 周年を記念して 2014 年に始まり、今年で第 10 回を迎えました。学部創設以来の伝統と定評ある英語やスペイン語の教育だけでなく、中国語、韓国語、ポルトガル語の教育をも加えた外国語学部でのグローバルな学びを、参加者が互いに励み共に楽しむことのできるイベントとして、毎年 12 月に実施されています。出場者は中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の課題文（詩歌や文学作品の一節）を暗唱・朗誦し、発音や表現力を競います。

昨年度の第 9 回大会から、「ソロ部門」（独演）と「ペア部門」（対話）という部門を新設しています。これに伴い、「レベル 1」と「レベル 2」というレベル分けを廃止しました。課題文の難易度は、「ソロ部門」が旧「レベル 1」に、「ペア部門」が旧「レベル 2」に対応します。

こうした開催形態の下、スペイン語、中国語、ポルトガル語、韓国語の四言語をあわせ、のべ 48 名（ソロ部門 28 名、ペア部門 10 組 20 名）の出場があり、うち 3 名（大木萌々華、望月来瞳、安田こころ）はグローバルコミュニケーション学科のカリキュラムである二言語学習を反映して、二言語でのレシテーションに挑戦しています。さらに参加者の内訳を見ますと、外国語学部グローバルコミュニケーションの学生（28 名）のみならず、静岡県内の高校生（20 名、加藤学園、静岡城北、浜松北、浜松湖南、吉原）も参加しています。

ただし、昨年と同じく、出場者数が少ないままでした。ちなみに、昨年の第 9

回は対面形式で実施し、出場者がのべ 53 名（ソロ部門 31 名、ペア部門 11 組 22 名、うち二言語出場者 2 名、静岡県内高校生 14 名）でした。また、一昨年の第 8 回は無観客の対面形式で実施し、出場者がのべ 76 名（Level I が 56 名、Level II が 20 名、うち二言語出場者 7 名、静岡県内高校生 29 名）でした。

常葉大学に集い外国語を学ぶ若者たちの熱演に対し、審査員が暗唱力、発音、表現力を審査します。会場では約 50 名の出場者、そして主催者やグローバルコミュニケーション学科の在学生の有志らが大きな拍手を送ります。なお、1 月 10 日（水）には草薙キャンパス内で表彰式を開催し、上位入賞者に賞状と賞品を授与しました。

また、学生実行委員による特別企画として、大会開始前に出場する高校生から希望者を募り、グローバルコミュニケーション学科の学生が常葉大学草薙キャンパスを案内しました。大会終了後には、有志を募って交流会を開催し、参加者がグローバルコミュニケーション学科の教学内容に関連するクイズを楽しみました。このように、レシテーション大会は在学生同士の、また大学生と高校生の交流の場でもあります。

本誌には、出場者の感想を掲載してきました。残念なことに、今年度は寄稿がありませんでした。来年度は多くの投稿があるのをお待ちしています。

＜入賞者一覧＞

ポルトガル語 Solo　課題：Ferreira Gullar “Dois e dois: quatro”

1 位　大木　萌々華　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

2 位　佐口　健心　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

3 位　望月　来瞳　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

ポルトガル語 Pair　課題：César Obeid “Adivinhas”

1 位　As guerreiras

　　浅沼　芳華　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年

　　増田　里花子　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年

2 位　るっちゃんさっちゃん

　　増田　咲依　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

　　吉田　ルナ　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

3 位　Palhaços

　　大村　優真　　静岡県立吉原高等学校 2 年

　　村松　万未子　静岡県立吉原高等学校 2 年

韓国語 Solo　課題：김소월「초혼」

1 位　矢川　愛華　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

2 位　湊　佑紀奈　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

3 位　中道　果花　　浜松湖南高等学校 3 年

韓国語 Pair　課題：윤동주「별 헤는 밤」

1 位　天使とスイカ

　　花村　凜　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

　　土屋　茉奈　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

2 位　다나카 씨는 회사원입니까？

　　青木　真子　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

　　依田　彩花　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

3 位　달님과 태양

　　鈴木　来奈　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

　　小玉　日遥乃　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

スペイン語 Solo　課題：Miguel de Cervantes “DE COMO ERA DON QUIJOTE”

1 位　内山　佳修　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 4 年

2 位　大木　萌々華　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

3 位　望月　来瞳　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

スペイン語 Pair　課題：Federico Garcia Lorca “LLANTO POR IGNACIO SANCHES MEJIAS LA COGIDA Y LA MUERTE”

1 位　サングリア

　　齊藤　瑠南　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年

　　間嶋　柚月　　外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年

2 位　なし

3 位　なし

中国語 Solo　課題：张继《枫桥夜泊》

1 位　阿部　りり香　静岡県立静岡城北高等学校 2 年

2 位　浅岡　さくら　静岡県立静岡城北高等学校 2 年

3 位　安田　こころ　静岡県立静岡城北高等学校 2 年

中国語 Pair　課題：辛弃疾《青玉案　元夕》

1 位　いいひら

　　平岡　明子　　静岡県立静岡城北高等学校 3 年

　　飯島　優　　静岡県立静岡城北高等学校 3 年

2 位　苹果

　　前田　理子　　静岡県立吉原高等学校 2 年

　　木下　莉緒　　静岡県立吉原高等学校 2 年

3 位　なし

＜審査員＞

スペイン語：岩崎　ラファエリーナ（常葉大学非常勤講師）、増井　実子（常葉大学教員）

中国語：盧　思（画家・京劇俳優）、戸田　裕司（常葉大学教員）

ポルトガル語：安藤アリッセ（常葉大学非常勤講師）、江口　佳子（常葉大学教員）

韓国語：崔　慶原（常葉大学教員）、柳　采延（常葉大学教員）

＜学生実行委員＞

［実行委員長］秋山ひより

［実行委員］浅沼芳華、石川和磨、佐口健心、星野伽蓮、松田千潤、谷津亜門

［ボランティア］（2年）木村菜々美、久保山愛菜、鈴木菜月

（1年）安達凪柚、小玉日遥乃、鈴木来奈、中野愛渚

（以上、本学外国語学部グローバルコミュニケーション学科生）

＜教職員＞

江口佳子（統括、学生補助）、谷誠司（審査、編集）、崔慶原（編集）、戸田裕司、増井実子（高校）、三村友美（会計）、柳采延、若松大祐（編集）

＜共催＞

フローリスト花便り　まるそ花店（曽根田成、GC 学科 2019 年卒）

＜公式サイト＞

https://sites.google.com/site/tokoharecitation

https://www.tokoha-u.ac.jp/language/recitation_contest/

常葉大学多言語レシテーション

パンフレット巻頭言より再録

re-「再び」cite「呼び出す」ことへの挑戦

外国語学部長　増井　実子

2014 年に始まった「常葉大学多言語レシテーション大会」は、今年で 10 回目を迎えます。グローバルコミュニケーション学科で学ぶことのできる四言語（中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語）の学習成果を披露する場として始まった大会でした。その後、静岡県内で四言語を学んでいる高校生へも門戸を開き、同じステージで高校生と大学生が競い合う現在のような形式の大会に成長しました。今年は毎年参加してくださる常連校に加え、初出場の高校がいくつかあり、多様な言語の学習に関心を持つ高校生が増えていることを嬉しく思っています。

「レシテーション＝ recitation」は、動詞 recite が名詞化した言葉であり、ラテン語が語源です。re-「再び」cite「呼び出す」、つまり、書かれた文字を読み上げることで、その文章が表現している世界をその場に再現することを意味します。課題文を深く理解し、声、表情、ジェスチャーなど自分の身体を駆使して、今日この場でその世界をうまく recite できた人に栄冠は輝きます。出場者の皆さんは、いったん舞台の上に上がったら、どうか悔いのないように演じ切ってください。

最後になりますが、大会開催に当たってご協力くださった関係の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

AI 時代に暗唱する意義

グローバルコミュニケーション学科長　谷　誠司

本年度も「多言語レシテーション大会」を開催することができ、本当に嬉しく思っております。特に今回は 10 回目の開催になります。これまで参加をしてくれた出場者、引率者の高校の先生方、聴衆として参加してくださった皆様、そして歴代の実行委員の学生には心から御礼申し上げます。

月刊誌『中央公論』の 2023（令和 5）年 7 月号に、少数民族の「ムラブリ語」を研究する伊藤雄馬氏と、25 以上の言語に精通するノンフィクション作家である高野秀行氏による興味深い対談が、掲載されていました[1]。

この対談では、「どの言語にも発音の音韻的特徴や文法的特徴があるだけでなく、言語ごとに独自のノリがある。このノリがないと、そのコミュニティーに適応できない」と述べられています。例えば、日本語における「すみません」や「どうも」も、このノリの一つです。外国人がこれを交互に使えば、日本語が上手に聞こえるでしょうし、日本人にも受け入れられやすいでしょう。しかし、このノリが欠如していると、コミュニティーに溶け込むことが難しいと指摘されています。最後に、高野氏は言語には「情報伝達のための言語」と「親しくなるための言語」という二つの側面があり、AI で代替できるのは情報を伝えるための言語であり、親しくなるための言語には情報伝達は必要ないと述べています。

外国語の詩や戯曲を暗唱する大会。AI 時代においては意味がないと考える人もいるでしょう。確かに言語を情報伝達の機能だけで見れば、もっともな考えです。しかし、外国語の詩や戯曲を暗唱することは、その言語が持つリズムや響き、さらには文化的な背景を自身の体験として取り入れ、言語のノリを身につける過程でもあります。

一見無駄に思えるかもしれませんが、これらの努力は皆さんの中で育まれ、成長します。日々の努力の成果を惜しまず発揮してください。そして、聴衆の皆様、どうか大会をお楽しみになり、出場者たちに心からの拍手を送ってください。

---

[1] 高野秀行、伊藤雄馬「対談「親しくなるための言語」は IT でまかなえない 辺境で見つけた本物の語学力」、『中央公論』2023 年 7 月号、pp.92-101。

３．社会人基礎力養成

現代の学生気質に配慮したキャリア教育の方向性に関する一考察

谷口　茂謙

近年、学生たちの就職活動の開始・終了が早まっている傾向がある。令和５年12月６日に行われた外国語学部教授会に提出されたキャリアサポートセンター（CSC）からの資料には、CSC 主催の３年生向けガイダンスへの参加者数がそれぞれの回ごとに報告されている。それによると、グローバルコミュニケーション学科の場合、６月までは 25 名未満の回は１回しかないが、７月以降では、20 名を超える回が１回しかなくなっている。10 月以降は一桁台になり、11 月 22 日の回はついに参加者なしとなっている。ガイダンスの内容にもよる可能性は残されるものの、前期中や夏季休暇中にインターンシップに参加して、ある程度の方向性を決めてしまっているために、必要がないと思われる内容のガイダンスには、出席するメリットがないと、学生たちは考えているものと推測される。

令和５年度は、学内で開催される企業研究セミナー（旧合同企業説明会）も、昨年度に比べて１カ月ほど早い２月の初旬に行われた。昨年度までは、３月の初旬に行われたこの説明会に先駆けて、１月下旬から２月初旬にかけて、GC 学科の学生のためだけに事実上の説明会を行ってもらう「現代の産業　課外特別講義」を自主的に開催していた。平成 30 年度に１社を招いて始め、次第に招聘する企業を増やし、令和３年度には 11 社を招いて行った。今年度は、それが不可能になった。２月初旬に合同説明会を受けた後に開催しても、学生にとって何のメリットもないからである。GC 学科専門科目の１つである「現代の産業」の課外特別講義の形で始めた理由は、就職協定があるために、表立った説明会を２月に開くことができなかったからである。CSC の担当者によると、CSC が旧合同企業説明会の開催を早めた理由は、昨年度に参加した企業に対するアンケートに、「３月では遅い」という趣旨の回答が多かったからとのことである。就職協定は現在でも存在するものの、企業の実際の動きが早まっているのである。これには、学生たちが就職活動を開始する時期、あるいは、自分の進路をある程度絞り込む時期が早まっていることが大きな影響を与えている。

現代の産業の課外特別講義では、少人数で人気企業の人事担当者と面談することができる。GC 学科の 3 年生にとって、大変に貴重で大きな利点のある機会となるはずであった。この機会に人事担当者と面談することにより、実際に内定の獲得につながった学生もいた。その一方で、企画した筆者が期待したほどの人数が集まらなかったことも事実である。若干名の講義も少なくなかった。せっかくの機会に学生たちが集まらなかった原因は、後期の終了時までに、受験する企業を学生たちがすでに絞り込んでいたからだと考えられる。受験しない企業の話を聞くメリットはないと判断したものと推測される。このような形で、学生たちの活動の早期化の傾向は、筆者にも感じられていた。

CSC のガイダンスへの参加者が夏季休暇以降に激減することは、グローバルコミュニケーション学科に限ったことではない。他の学科にもその傾向は見られる。特に夏季休暇中に参加するインターンシップが大きく影響している可能性が大きい。本来、インターンシップは、就業体験をすることにより、志望する業界への理解を深め、その仕事に対する適性を自分自身で判断するための機会であった。だから、学業に支障のない範囲で、できるだけ多くのインターンシップに参加して、自分に最も合う仕事を探すことを、筆者も奨励してきた。ところが、近年では、インターンシップが事実上の早期選考の機会となっている現実がある。企業側には優秀な学生を早く確保したいという思惑がある。学生の側にも、早く決められるものなら決めてしまいたいという気持ちがある。自分が志望する企業のインターシップに参加できた学生はもちろんだが、「気に入るかどうか見極めよう」という気持ちで参加した学生でも、期間中に悪い印象がなく、さらに「受験してくれることを期待している」旨を告げられると、受験する意欲を高めることは当然である。その結果、早期選考を受験することに集中してしまい、他の企業を幅広く見ようとしなくなってしまうと考えられる。

CSC の担当者によると、学生たちは就職活動でも「タイパ（タイムパフォーマンス）」を口にするとのことである。どうやら「Z 世代」と呼ばれる現代の学生の気質が影響しているらしい。令和 5 年 6 月 20 日に放送された NHK のテレビ番組「クローズアップ現代」で、「タイパ」が取り上げられている。（https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4793/）番組の中で、Z 世代がタイパを重視する理由について、新しい世代と向き合うマーケティング機関である

「SHIBUYA109lab」が調べたデータが紹介されている。それによると、上位 3 つの回答は「自分が価値を感じることに時間を割きたい：49.3%」、「自分にとって無駄な時間を省きたい：41.5%」、「世の中のあらゆることを効率化したい：30.8%」である。1 位の理由を就職活動に当てはめると、就職活動以上に価値を感じていることが学生たちには他にあると考えられる。自分の一生に関わるといっても過言ではない就職活動にまでタイパを重視して作り出した時間を、学生たちが自分の学業のために割いているとは考えにくい。長い旅行や留学など、学業以外にも、学生時代にしかできないことはいくつかある。大多数の学生がそれらのために時間を費やしているとも考えにくい。CSC からのもう 1 つの情報では、コロナ禍で学生生活の前半を十分に謳歌できなかった影響も考えられるとのことである。残り少ない日々の学生生活を楽しむために、就職活動にも時間を取られたくないと考えている可能性がある。たとえそのような事情があるとしても、就職活動においてタイパを重視してしまっては、自分の将来の可能性を狭めることになる。自分でも知らなかった適性に気づき、新たな進路を見出すことができなくなるはずである。タイパに代表される考え方、すなわち、学生たちが育ってきた時代背景の中で習慣づいた考え方を、一朝一夕に覆すことは極めて難しい。そのような考え方をする学生たちの現実を受け入れ、それにどのように対応するかを考えることが、これからのキャリア教育には必要となる。

3 年次の夏季休暇中のインターンシップが、学生たちの将来に対する考え方に大きく影響するとなると、2 年次の「現代の産業」で扱う内容の重要性が高まる。実際に企業を招いての講義から、その企業や業界について理解を深めさせる効果は大きい。この授業で招く企業には、開講当初から、学生が比較的に目を向けにくい中小企業を含めるように留意してきた。例えば、有名企業のように、授業で学ばせなくても、学生たちが自分から興味を持って調べるような企業は、なるべく招かないようにしてきた。学生たちが目を向けにくい業界を知らせることにより、視野を広げさせることが、現代の学生には大きな意味を持つはずである。この基本的な方針は続けるべきだが、各学期に 3 社ずつ、1 年で 6 社を招くことが精一杯という現実がある。その制約の中で、紹介する企業を増やし、より多くの業界に目を向けさせ、一人でも多くの学生が、自分の将来を考えるための視野を広げさせる必要がある。

そのためには、過去に招いた企業の資料を再利用して、筆者がその企業と業界を紹介することが考えられる。学習意欲を高めるために、学生たちに人気のある企業をいくつか招いたことはある。そのような企業は、わざわざ授業で紹介しなくても、学生たちが自主的に調べるに違いない。授業で取り上げる企業は、学生たちが自身では調べないと思われる優良企業である必要がある。そのような企業をこれまでに多く招いてきている。招いた当時の情報で古くなったものは、調べられる範囲で更新して伝える必要もある。ただし、企業が行った講義を再現しなくてもよい。授業に求められる改善は、そのような優良企業の魅力を理解させ、学生たちが自分の将来を考える際の視野をより広くさせることである。

企業による特別講義に関係する回以外の通常の授業で、過去の企業を紹介することには問題もある。通常の授業では、商業、卸売業、物流業など業界に関する基礎知識を理解させてきた。現代の産業という科目で学ばせる内容としてふさわしいものである。そのような基礎知識があるからこそ、企業による特別講義の理解が深まることも事実である。それらを削って、企業の紹介を増やすことが改善と言えるのかという点に疑問が残る。実施に踏み切る前に再検討したい。令和４年 11 月 16 日に、タイパに関する別の記事が NHK のサイトで配信された。（https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221116/k10013891871000.html）この記事によると、恋愛にもタイパの影響が及び、俗に言う「合コン」が減少し、マッチングアプリや SNS を通じて、相手の趣味を知った人と直接にやりとりする若者が増えたとのことである。実際に会って話して相互理解を深め、コミュニケーション力を磨く機会を、タイパの考え方を基に避けてしまっている。そのような考え方をする世代の学生を相手にしていることを、教員の側が十分に理解して、これからの時代に合ったキャリア教育のあり方を考えてゆかねばならない。

３年次の夏季休暇中のインターンシップよりも前に、学生たちの視野を広げ、将来の可能性を広げさせるキャリア教育が求められている。GC 学科においては、現代の産業だけではなく、１年次の協働研究セミナーや社会と産業でも、キャリア教育を行うチャンスがある。これらの授業内容も、現代の学生の気質を考慮して再考する必要がある。さらには、４年次のキャリア教育を充実させることも考えなければならない。キャリア教育は、就職が決まれば終わるものではない。就職先を決めた後だからこそ、キャリアの計画をより具体的に立てられるようにな

るはずである。それを考えさせる授業が 4 年次に必要となる。内定先の企業から課題をもらい、それを解決・達成させるような授業を新たに設けることは、授業の改善の 1 つの方向性になり得る。実際にそれに取り組む学生がどれだけいるのかはわからない。卒業研究として必修化された科目で行うことで、それを選択した学生だけでも、より充実したキャリア教育を受ける形にすることが、これからのキャリア教育のあり方として、現実的な方向性であると考えられる。

４．臨地実習

はあとふる Yaizu における多文化共生推進活動

増井　実子

今年度の「臨地実習 A」では、受講者 14 名が 10 月 29 日（日）に開催された「はあとふる Yaizu」において以下の活動を行なった。

●活動内容

①　無料体験ブースの企画・運営

「国籍問わず参加可能、室内で開催可能、無料で体験可能」という焼津市からの要望を受けてメンバーで検討した結果、「楽しい日本のあそび」をテーマに、日本のお祭りをイメージしながら、簡単に楽しめる「遊び」（輪投げ、コマ回し、コップでランタン）と「お茶の飲み比べ」を行い、来場者に楽しんでもらえるブースを運営した。

②　当日の会場運営補助

・ボランティアスタッフ（司会、受付、保安、ステージなど）として、会場の運営を支えた。

●活動日程

５月：活動の説明会

６月～ 10 月：月１回のペースで焼津市市民協働課と打ち合わせ（zoom および対面）、各ブースの企画・準備

10 月 29 日：「はあとふる Yaizu」での活動

12 月：活動の振り返り、事後レポートの提出、報告会に向けた準備

１月 17 日：ＧＣ学科「海外・学外活動報告会」での報告

●受講者氏名

３年：小井麻央、清水理那、山田美紗希

２年：岩本直也、佐口健心、清水菜々花、杉山春樹、角替小夏、服部友香、谷津

亜門、米津小智
1 年：一圓 天舞、小玉日遥乃、清水美緒

「振り返り活動」で受講者から出た意見や感想（一部）

- 今後も交流イベントに積極的に参加し、地域の外国人たちと交流を深めたい。
- 言語が伝わらなくても、ジェスチャーで気持ちを伝えてみる。偏見や差別を持たず、相手を受け入れるという気持ちを持つことが大切だとわかった。
- GC 学科としてサークルを立ち上げてもいいのではないか。授業としてではなくても、純粋にボランティアとして参加することも大事。多文化運動会やグローバルスピーチコンテストなど、自然に楽しめるイベントを考えてみたい。
- 時間が足りなくて、来場者した外国人の方と世間話ができなかったのが残念。「国籍」を度外視して「一人の人間」として接していきたい。
- 相手のレベルに合わせた「やさしい日本語」の力を身に付けたい。
- 最後の「みんなでダンス」がとても楽しかった。会場も一体感があった。みんなで一緒に何かを楽しむということは、何よりの国際交流になると感じた。

学生の活動に対する焼津市の講評（抜粋）

- ボランティア等の参加者を含めた数で約700人が参加するイベントになった。コロナ禍前の水準に近づいてきた。
- 無料体験ブースとチラシデザインのプレゼンの内容は魅力が伝わりやすいものだった。
- 決定した企画を実現するため、また、どうしたら更に良いものになるのか皆でアイディアを出し合い検討し、実行委員会以外でも個々の空いている時間で作業していただき、とてもスムーズに準備することができた。
- 当日も大きなトラブルなく終えることができた。最後のダンスで皆さんが参加者と一緒に楽しんでくださったことで、このイベントの根源である「国際交流」が形となり、とても良いイベントとなった。
- 「自分たちで考え、形にしていく」という常大生の力に支えられたイベントになった。

フィナーレの「みんなでダンス」

無料体験ブースの様子

常大フラメンコ部も出演

臨地実習メンバーによる事前準備

５．（GC）学内外での教職員や学生の取り組み

歓迎聆聴：2023 年度公開講演を実施して

若松　大祐

2023 年度は、自身の授業の一環として合計 3 回の公開講演を実施しました。いずれの講演も、授業担当者である若松の不足を補って余る内容でした。受講者は講演を通じて新たな知識を得たり、物事について考えるきっかけを得たりできたはずです。

講演は公開しており、本来の授業の受講者のみならず、他の学生や教職員の参加がありました。とはいえ、授業の受講者以外の参加者はまだまだ多くありません。2024 年度も引き続き公開講演を実施します。この記事を読んだあなたのお越しをお待ちしています！

なお、ゲストスピーカーを招聘するにあたり、常葉大学教材費の支援を受けました。改めてお礼申し上げます。

＜公開講演の一覧＞

(1) 2022 年 11 月 18 日（火）10:45-12:15、教室 B302（授業名：中国文化入門）

黄　維邦 (HUANG, Wei-pang)、台湾味・料理長

「在日本的經驗與廚藝的心得」（日本での経験と調理の心得）

本講演では、厨師（料理人）になるためのキャリア形成と、中華料理の持つ魅力とを紹介します。講師は点心づくりを得意とする台湾人であり、30 歳を直前にして五十音も知らないのに日本へやってきました。受講者は料理を通じて、中華文化への理解に近づくことができます。また、黄維邦という人間の経験を通じて、日本における外国人の境遇を知ることができます。（なお、講演はすべて中国語で行われ、若松が日本語へ通訳します。）

(2) 2023 年 12 月 14 日（木）13:15-14:45、教室 A504（授業名：中国語会話 IB）

岡山　芳治 (OKAYAMA, Yoshiharu)、松浦史料博物館・館長、平戸オランダ商館・館長

「博物館の活動と外国語：松浦史料博物館および平戸オランダ商館の事例」

平戸は古くから日本の対外貿易の拠点として発展してきました。遣唐使が通過したり、栄西禅師が中国から日本へ帰る際に立ち寄り、茶を植えたのも平戸です。1550 年には、日本で最初にポルトガル船が来航しました。イギリスやオランダとも貿易を展開しています。William Adams（三浦按針）はイギリスからやってきて平戸で人生を終え、鄭成功（国姓爺、Coxinga）は平戸で生まれ中国や台湾で活躍しました。したがって、平戸にはかつての国際的な繁栄を伝える文物が残り、それは松浦史料博物館や平戸オランダ商館に保管され、その内のいくつかが展示されています。

このたびの講演では、松浦史料博物館や平戸オランダ商館という博物館の活動を紹介します。話題は、平戸での海外貿易によってもたらされた南蛮スイーツに及びます。特に、外国語を使うという観点から取り上げます。外国語をフル活用する場面もあれば、外国語を少し知っていると、作業を進めやすいという場面もあります。外国語を使う仕事として、博物館の活動を紹介しましょう。

(3) 2023 年 12 月 19 日（火）10:45-12:15、教室 A428（授業名：中国語会話入門）

上窪　清治 (KAMIKUBO, Kiyoharu)、ヤマガタ食品株式会社・代表取締役社長

「あるビジネスマンの中国文化との出会い」

私は大学ではリベラルアーツを修める際に英語とドイツ語を履修し、大学卒業後は銀行に就職しました。つまり、中国とは縁遠い世界で生活していたのです。ところが、50 歳から日本と中国語圏と行き来する生活が始まります。私自身の経験とともに、日本の食を中国が支えているという事実や、ビジネスを通じて体得した中国との付き合い方について紹介しましょう。（なお、本講演は「中国語会話入門」（戸田裕司）と合同で実施します。）

（※ほとんどが約 60 分の講演、約 20 分の質疑応答。）

V　各言語圏での活動

１．英語圏

カナダ留学を終えて学んだこと

21121025　勝村　寧々

私にとって７か月間のカナダ留学は、自分の価値観や考え方に大きな影響を与えた有意義でかけがえのないものでした。日本にいては決して知ることも、深く理解することもできなかった異文化やその中で生活する人々の価値観の違いを目の当たりにし、多くのことを学びました。このカナダ留学がなければ今の成長した自分はいないと言っても過言ではありません。自分の留学経験を振り返るためにも、私が留学生活を経て学んだことや身につけたことを紹介します。

異国の地で有意義な時間を過ごすためには周りの人と関わることはとても重要であり、意思疎通のツールが英語に限られるため積極性や行動力が必要不可欠です。留学生コースの７割は日本人で、英語力向上のために日本語を耳にしたくなかった私は放課後、留学生コース用の建物にとどまることを避け、常に大学内のジムに行きワークアウトやバスケットボールをしていました。大学生だけでなく幅広い年代の人たちがジムにいて、最初は緊張して輪に入れなかった私も時間が経つにつれて、積極的に毎日彼らの中に入り、バスケットボールをプレイできるようになっていきました。スポーツを通じてつながる絆は強く、そこで多くの友人ができ、その友人が新たに友人を紹介してくれ、たくさんのコミュニティができました。彼らが英語の勉強を手伝ってくれたり、イベントに連れて行ってくれたりと大学外でもいつも私を気にかけてくれたため、諦めずに自分から行動したことで素敵な人たちに巡り合うことができたことを実感することができました。自分から積極的に行動しなければ何も変わらない、行動することができれば大きな躍進につながるということがこの留学で分かりました。

そして多くの人たちと関わる中で体験した異文化交流を経て、多様な価値観や文化の違いを知ることができました。この留学中に何度も経験したカルチャーショックは今では私の経験値となり、様々な文化や価値観を受け入れるためにとても重要なものだったのではないかと思っています。日本では自分より相手のことを考え、気遣うことが一般的とされていますが、カナダではそれよりも自分の

ことを一番大切にするという文化を強く感じました。留学中、ホームステイ先で食事を出してもらえないなどのトラブルがあり悩んだ際に、私はホストの方々に罪悪感を抱き、ホームステイ先を変更したいと言い出せずにいました。そもそも私は泊めさせていただき、家の物を貸してもらっている身だから文句を言えないと、友人に相談したら「自分が嫌だと思うなら伝えなければ変わらないよ。何のために誰のために我慢しているの？」と言われて初めて、「自分のために」という文化の素晴らしさを理解したような気がします。それ以来自分の思ったこと、やりたいことを素直に相手に伝えるようにし、自分の意志を持った芯のある人間に少しでもなれるように努力したいと思いようになりました。またカナダの文化は、どのような時でも柔軟で、年齢や性別、キャリアにとらわれることはありません。私は、このような文化を、自分の好きなことを好きなように挑戦することができる素敵なものだと思いました。その反面、スポーツでは相手を煽るトラッシュトークが飛び交っており、バスケットボールを通して日本ならではの「謙虚さ」も素敵な文化だと思い、日本とカナダ両文化の良さを実感しました。それぞれの文化に素晴らしいところがあって、良し悪しではなく、どんな文化でもたとえ納得ができなくても「受け入れる」ということの大切さをこの留学で学ぶことができたと思います。

最後にこの留学を通して私は、他国の人と言語を超えたコミュニケーションを交わせるという素晴らしさを実感しました。英語を使ってコミュニケーションを取ることはもちろん、現地の友人とスポーツや映画、学校行事やイベントを楽しむことで彼らと感情を共有し「うれしい」「悲しい」という気持ちを理解し合えること、それがとても感慨深く大切なことではないかと思いました。当然、言語は人間が意思疎通を図るうえで最も大切なものですが、時間や感情を共有することも相手を理解することにつながると思います。留学中、英語が苦手だったコロンビア人のクラスメイトとランチに行った際に、同じホットケーキを食べて笑いながら遊んだことがあります。英語を使ってもなかなかうまく意思疎通が取れずどうしていいかわからなかったときに二人で食べ歩きをしてとにかくずっと笑い合っていました。別れ際に「すごく楽しかった。もっとたくさん話したいから英語勉強頑張るね」と言ってくれたのを覚えています。人と人とのつながりは決して言語だけで生まれるものではないことを実感しました。

このように、私はカナダ留学を経験して、積極性と行動力の重要さや、異なる文化や価値観の相違を理解し受け入れること、言語だけでなく時間を共有することで生まれる人との絆など多くのことを学びました。この留学経験を活かし、大学卒業後は、教員として多くのこどもたちをサポートできるように自分の人間性を磨いていきたいと考えます。今一度、留学中私と関わってくださった方々、留学をサポートしてくださった先生方や両親に感謝したいです。

カナダ語学研修（ビクトリア大学、2023 年 2 月）の概要

新妻　明子

2022 年度春期カナダ語学研修が 3 年ぶりに実施された。コロナ禍からの移行期における実施となり、参加学生たちは様々な負担の中での葛藤を乗り越え有意義なプログラムが実施できた。本稿では、カナダのビクトリア大学における語学研修の概要と特徴を述べる。

１．概要

実施期間：2023 年 2 月 5 日～ 26 日

実施国・機関：カナダ・ビクトリア大学英語語学センター（提携大学）

参加者：英米語学科生 11 名、グローバルコミュニケーション学科生 1 名、初等教育課程生 1 名、経営学科生 1 名

目的：英語運用能力の向上、カナダの歴史や文化に対する理解の深化

２．語学研修の特徴

実施にあたり、ビクトリア大学は本学の提携大学であり短期・長期留学プログラムも実施しているため、3 週間という短期間の語学研修をいかに充実したプログラムにするかに重点を置いた。短期留学の学生が参加する 4 週間のマンスリープログラムは日程の都合が合わないため、語学研修では常葉大学独自のカスタマイズプログラムを組んでいる。このプログラムでは、午後実施するアクティビティーを充実させ、カーリング体験など、自由行動では体験できないようなアクティビティーを組み込んでいただいた。参加学生からも「自分ではやってみようと思わないアクティビティーも体験できたことが良かった」といったフィードバックがあり、語学研修でしか味わえない経験となったことだろう。教室の外で様々な活動をしながら英語を使用する場面が多いからこそ、ひとりひとりがコミュニケーションの実践や文化的体験を存分に味わうことができるのである。長いようであっという間の 3 週間のプログラムであるが、様々な不安や苦労も含めてこの研修でしか得ることのできない学びが凝縮しており、それを今後の学びに

どのように生かしていくのかはそれぞれの学生次第である。ビクトリア大学での語学研修は隔年の実施となっているが、今後も充実したプログラムを提供していけるよう取り組んでいく予定である。参考までに、カスタマイズプログラムの内容を以下に掲載する。

【参考資料】カスタマイズプログラムの日程表

ENGLISH LANGUAGE CENTRE @UVIC

Tokoha University Program - February 2023

Details

February 6 - 23
English Classes
First class: 8:30am-10:20am
Break: 10:20am-10:40am
Second class: 10:40am-12:30pm
Lunch: 12:30pm-1:30pm

Each day there will be activities that will generally start at 2:00pm, after your morning classes and lunch break. Activities are different each day and include a variety of experiences to introduce students to Canadian Culture.

February 24
Enjoy the Farewell Event and Certificate Presentation with your classmates. Later in your program, you will receive an invitation, time and directions.

$Additional Cost Activities$
Purchase your tickets at the Continuing Studies Student & Financial Services Office, or purchase online.

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5 Arrival Day - Welcome to Victoria! Pickup by Host Family	6 English Classes 1:30pm: Program & Homestay Orientations and Campus Tours	7 English Classes 2:00pm: Downtown Walking Tour	8 English Classes 2:00pm: Discover BC Tour: Sidney by the Sea	9 English Classes 2:00pm: Visit the historic Craigdarroch Castle	10 English Classes 1:00pm: Coffee Social and Sports 7:05PM: Victoria Royals Hockey	11 Free Day with Host Family Vikes Basketball Game
12 **$Additional Cost Activities$** High Tea 	13 English Classes 2:00pm: Canadian Curling Sports Activity	14 English Classes 2:00pm: Workshop with CA Staff	15 English Classes 1:00pm: Surprise Activity (don't bring your lunch)	16 English Classes 2:00pm: Workshop with CA Staff	17 English Classes 1:00pm: Coffee Social and Sports **$Additional Cost Activities$** 2-Night Vancouver Trip	18 **$Additional Cost Activities$** 2-Night Vancouver Trip (Continued)
19 **$Additional Cost Activities$** 2-Night Vancouver Trip (Return) 	20 Family Day Holiday. UVic is closed. 	21 English Classes Program Evaluation sent by email 2:00pm: Workshop with CA Staff	22 English Classes 2:00pm: Discover BC Tour: Beacon Hill Park	23 Final Class and Speaking Test Free Afternoon for shopping and packing	24 Farewell Event and Certificate Presentation 	25 Farewell and good luck from the staff and teachers at the English Language Centre!
26	27	28				

This calendar is subject to change without notice and was last updated on October 27, 2022.

日本とカナダの建築的相違点

稲葉　理衣夏

1. はじめに

2023 年 2 月 5 日から 26 日の間、語学研修のため、カナダのブリティッシュコロンビア州の州都であるヴィクトリアに滞在した。その間、多くの人や新たな文化に出会い、自分の視野を世界へと広げる重要な機会となった。今までは、カナダといえば、北アメリカ大陸にあることもあり、隣国であるアメリカと強く結びついているのだろうという先入観を持っていた。しかし、実際にヴィクトリアを訪れてみると、そこは想像していたものとは全く異なった雰囲気であった。街や住宅街を見渡してみると、落ち着いた英国の情緒のようなものを感じられた。そしてこの国を知りたいと強く思うようになった。カナダは、多様性を重視しており、様々な人種・文化・言語・考え方が共存した理想的な社会を実現しているといえるだろう。そこで、このレポートでは、カナダでの 22 日間の経験で見えてきた日本とカナダにおける差異を、建築物に焦点を当てて、その特徴を述べたいと思う。

2. 調査について

ここでは、調査の対象、調査の対象となった場所、調査方法について述べる。まず、調査の対象としては、現在、公的に使われている建造物や、市民の住宅を対象とする。また、それらはすべて自らが 22 日間滞在したブリティッシュコロンビア州の南西部に位置するヴィクトリアでみられるものである。ここで、ヴィクトリアという場所について簡単に説明したいと思う。

先ほど述べたように、ヴィクトリアは、カナダのブリティッシュコロンビア州の州都であり、同州南西部にジョージア海峡をはさんで横たわるバンクーバー島の南端部にある都市である。また、カナダの花の都とも呼ばれ、春から夏にかけて街が色鮮やかな花々［図 1］に囲まれる。そして、英国風な街並み［図 2］を堪能することができるという点で、本土とは違った風情を感じられ、観光地としても非常に有名である。

［図１］ ブリティッシュコロンビア州議事堂

［図２］ヴィクトリアのダウンタウンにあるエンプレスホテル

そして、調査方法としては、実際にホームステイする際に経験した違和感や疑問点を挙げ、それらをホストファミリー、ヴィクトリア大学の先生、CA（Cultural Assistant）などから得た情報、また、本やインターネット上の情報などから考察し、日本と比較した建築物・住宅の差異や特徴を明らかにしていく。

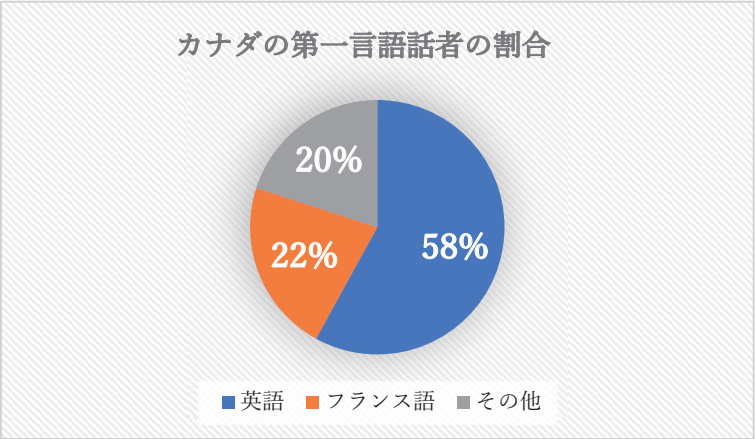
3. ヴィクトリアにおける建築物・住宅について

まず、本論を述べるにあたって重要となる、カナダの歴史的背景を簡単に述べる。また、ヴィクトリアにおける建築物・住宅の特徴や、日本との差異は主に３つあると考える。以下に、それぞれの要点を述べる。

3-1 カナダの歴史的背景

18 世紀頃にフランスとイギリスの植民地抗争が北米大陸で勢いを増し、それ

ぞれの領地を割譲することとなった。その背景から、東側は主にフランス領、西側はイギリス領と分けられた。独立を果たした今でもそれぞれの文化が顕在し、さらには他の文化をも混在するようになった。わかりやすい例として、言語の違いが挙げられる。カナダでは公用語がフランス語と英語の 2 つ存在しており、あらゆる商品・標識・案内には上記 2 つの言語が表記されていることが多い。わかりやすくグラフ［図 3］にしてみると、カナダ国内で英語を第一言語としている人は、国民の 58%。一方、フランス語を第一言語としている国民は 22%。その他の言語を第一言語としている割合は 20%という結果が出ている。文化だけでなく、言語という面でも多様性が見られる。



［図 3］　カナダ国内での第一言語話者の割合

3-2-1　ヴィクトリアの建造物の特徴　＜ブリティッシュコロンビア州議事堂＞

2 で述べたとおり、ヴィクトリアでは英国の雰囲気を建造物から感じられる。このような建物は主にダウンタウンに建てられている。その中でも、［図 1］で示したブリティッシュコロンビア州議事堂（The Legislative Assembly of British Columbia）では、「ロマネスク様式」が使用されている。ロマネスクという言葉は、「ローマ風の」という意味であり、「ローマの真似ごと」のような皮肉が込められているという説もある。この様式は、およそ 10 世紀から 12 世紀頃までの、中世西ヨーロッパの建築にみられたものである。このロマネスク様式の

特徴は、天井部分のアーチ［図４］と、上部の石材の重みに耐えられるような太く分厚い壁を備えているという点である。1897 年末に完成したこの州議事堂だが、現在でも州議会で使われている。いわばブリティッシュコロンビア州の政治の中心といっても過言ではないだろう。また外見だけではなく、建物の内部までこだわって造られている［図５］。

ちなみに、日本では明治以降に建設された奈良少年刑務所［図６］にロマネスク様式が使われている。

［図４］　ブリティッシュコロンビア州議事堂

［図５］ ブリティッシュコロンビア州議事堂内装

［図 6］ 奈良少年刑務所

3-2-2　ヴィクトリアの建造物の特徴 ＜クレイダーロック城＞

クレイダーロック城は 1887 年から 1890 年にかけて建設された、当時の有力者の大邸宅である。石造建築であり、重厚なたたずまいをしているこの城は、ヴィクトリアのダウンタウンを見下ろす高台に建てられている。石炭の大鉱脈を掘り当て財を成した、スコットランド人のロバート・ダンスミュアという人がこの邸宅を建築した。妻のジョアンのために 3 年もの月日をかけて建てた。しかし、ロバートは完成を目前にして、1889 年に亡くなった。この建物は、1992 年に歴史的価値が認められ、カナダの国定史跡に認定された。

この邸宅は 4 階建てであり、合計して 39 もの部屋がある。それらの部屋は、ダンスミュア家が使用していた家族用の部屋と、それに仕えた使用人用の部屋に分けられている。部屋にはステンドグラス［図 7］が多用されており、部屋の内部を自然光が明るく保っている。余談だが、このクレイダーロック城の中には“hair wreath”［図 8］というハート形のリースがある。ハート形は、家族に対する親愛を意味するようだ。このリースは Sarah Hunter という人物が自身の髪や両親、6 人姉妹の髪の毛をヘアブラシから集めて作ったもので、観光客の関心を得ている。

［図７］　ステンドグラス

［図８］　hair wreath

3-3　ヴィクトリアの住宅の特徴

ヴィクトリアの住宅に関しては、３週間のホームステイ体験から、日本と比較した際の多くの相違点を見つけることができた。その中でも、特に住宅における違いが顕著だった。

一つ目は、カナダの自宅には地下があるという点だ。私は３週間、地下にある部屋に住まわせてもらっていた。他の留学生仲間のイテイ先にも地下がある家が多く、そこで他の学生と共同生活をしていた留学生もいるようであった。地下と言っても半地下［図９］のようなもので、カナダでは「ベースメント」と言い、このベースメントを賃貸として貸し出している人も少なくない。私たち日本人の

［図９］　ベースメント

思うベースメントは「暗い」「寒い」「怖い」のようなイメージであるがそんなことは全くなく、日中であれば太陽の光が入り込んでくるような部屋が多い。また、私のステイ先もそうであったが、外に出られる専用のドアがあり、キッチンやトイレ、シャワールームなど、水回りが完備された家も多くある。

二つ目として、カナダの住宅の暗さについて述べる。家の中を見回してみると、天井には電気が無く、スタンド式のランプをあちらこちらに設置することで、必要な場所だけを照らしている部屋 [図 10] がみられた。または、天井にランプはあるが、間接照明も設置することで天井のランプは使用しないという家もあるようだ。そもそも部屋全体を明るく保つという考えは、特になさそうだと感じた。

[図 10]　部屋の電気

三つ目として、カナダの住宅の多くに裏庭 [図 11] があるということを挙げる。裏庭が多い理由として、一世帯が持っている土地が日本に比べて余裕があることと、犬などのペットを飼っている家が多いこと、またバーベキューをすることが

[図 11]　裏庭

多いという点が考えられる。日本では、裏庭があると「土地持ち」のように扱われるが、カナダにはそのような概念はなく、一般的に裏庭を持っている人が多いという事が分かった。

最後に、建築の話題から外れるが、日本との習慣の差が顕著だと感じたゴミの分別について述べる。日本も各地で異なるゴミの分別方法を用いているが、私の住んでいる静岡市では、特に分別の指示はなされていない。分別のルールがないその背景には、ごみ処理施設の高い技術が関わってきている。そこで、カナダでのゴミの分別方法に着目してみようと思う。ステイ先についた際に、私はまずゴミの分別方法をホストファミリーから細かく教えてもらった。それほど分別という行為が重要視されているのだ。自宅のゴミは大きく分けて 4 つに分類される。まずは、Garbage とよばれる一般ゴミ [図 12]。ここではラップや、野菜・果物の入ったネットなどが挙げられる。二つ目として、Food Scraps と呼ばれる生ゴミが挙げられる [図 13]。これらは埋め立てられるのではなく、堆肥化したり、バイオ燃料として利用したりされる。また、枝や草など庭木もこの分別として含まれる。三つ目として、Mixed Containers とよばれるリサイクルのできるもの専用のゴミ箱がある [図 14]。日本では、缶とビン、プラスチックは分別することが多いが、カナダではこれらはこの青色のゴミ箱に入ることが多い。四つ目として、Mixed Papers and News Papers と呼ばれる紙類専用のゴミ箱もある [図 15]。このようにカナダではゴミの分別が細分化されているため、初めは難しいと感じるが、慣れる事で環境保全につながっていく。また、道路にも公共のゴミ箱が多く点在しており、ゴミのポイ捨て防止にも力を入れているようだ。

4. まとめ

このように、当たり前だと思っていたことが全く異なり、文化間の差が大きいほど、その事実を受容することは難しいということを学んだ。しかし、どちらの文化が良い、または悪いなのではなく、それぞれの土地に適した文化が育っていくという点で、とても面白く奥が深いと思う事も出来た。今回の語学研修では、大変だと思う事も多くあったが、学びが多くあったことが、有意義な時間を過ごす鍵になったのだと思う。この研修に協力してくれた家族や友人、先生方には感謝を伝えたい。

5. 参考資料

カナダ・ビクトリアのシンボル「州議事堂」の中を探索してみよう！
https://tripnote.jp/canada/the-legislative-assembly-of-british-columbia

日本のロマネスク建築【奈良少年刑務所】近代化遺産「旧奈良監獄」はホテルに生まれ変わる
https://mio333.jp/nara-romanesque_architecture-143.html/

知っておこう！カナダの住宅の特徴 日本と違う 10 つのこと
https://hmalifax.com/different-houses/

【2022 年度版】意外と知らない !? バンクーバーのゴミ分類法 & リサイクル方向 -Life Vancouver カナダ・バンクーバー現地情報
https://lifevancouver.jp/2015/03/summary/40618.html

カナダ語学研修（ダルハウジー大学、2023年8月）の概要

新妻　明子

本学がカナダのダルハウジー大学と提携を結んで初めての研修が実施された。本来は教職課程を履修している学生のための「英語教育」に特化した研修プログラムであるが、今回の研修では「英語教育」と「実践英語」の2本立てのプログラムを実施することとなった。本稿では、研修の概要と特色について述べる。

１．概要

実施期間：2023年8月8日～9月7日

実施国・機関：カナダ・ダルハウジー大学語学センター（提携大学）

参加者：英米語学科生4名、グローバルコミュニケーション学科生2名、初等教育課程生1名

目的：英語運用能力の向上、英語教授方法の学修、カナダの歴史や文化に対する理解の深化

２．研修の特徴

実施大学であるダルハウジー大学はカナダ東部に位置するノバスコシア州ハリファックスにある。午前の授業内容は英語のスキルが中心であるが、午後の授業は「英語教授法」と「実践英語」の2つのコースに分かれて行われた。午後の授業が週3日あり、英語を使用して特別な分野を学ぶという内容が大きな特徴のひとつといえる。ダルハウジー大学自体も、午後のプログラムの豊富さと充実した授業内容を自負している。「英語教授法」のコースはCLILを中心とした授業実践について、「実践英語」のコースはフィールドワークを行いながらカナダやノバスコシア州の歴史や文化について学ぶことができる。さらに、午後や週末のアクティビティーは、ダルハウジー大学の学生スタッフが様々なプランを提供してくれるおかげで、日没までが長いハリファックスの午後を充実したものにすることができた。

また、到着日から約1週間は寮生活、その後ホームステイに切り替えるという

プログラムであることも特徴的である。寮生活で海外の大学に留学したかのような体験をすることができ、食事など生活に関する不安がないことはとても安心であった。アクティビティーのスタッフも同じ寮に住んでいるため、食事を一緒にとることもあり、困ったことなどがすぐに相談できる環境であった。

このように、ダルハウジー研修は、他の語学研修よりも授業時間が多く、専門的な内容も学ぶことができるだけでなく、生活面やアクティビティーも充実しているプログラムであるといえる。また、カナダ東部のハリファックスという都市を訪れる機会も様々な意味で貴重な体験となると思われる。

Welcome to Halifax! ―ダルハウジー語学研修―

KATO Hana（加藤　羽那）
SATO Sakura（佐藤　さくら）
SUGIYAMA Moemi（杉山　萌美）

Welcome to Halifax! These experiences here in Halifax enrich our life for sure!!! Join us on this exciting adventure!!!!!!!!!!!!!

I have a lot of things I like in Halifax! First, people are kind. When people get on the bus, they say, " Hello" or " Good morning" to the driver, and when they get off the bus, they say, " Thank you" or " Have a good day" to him. He also says, " Thank you". This little communication makes me happy every day. Moreover, people in Halifax open the door for unknown people. Conversations also happen there. In Japan, nobody talks to or say hi to random strangers. So that the culture of greeting in Halifax was very fresh for me. I like it!

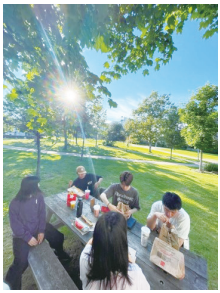
Halifax is a global city. In 4 weeks, I saw many kinds of people, such as Korean, Brazilian, Mongolian, Chilan, Indian, and so on. Even when I'm getting on the bus, I was excited to check their fashion and hair style. I thought it was wonderful that everyone had and enjoyed their own style. In Japan, there are stereotypes for beauty. For example, a girl who is thin, and has white skin and big eyes is defined as a beautiful person. It depends on the person, but it's generally true. Therefore, since I've came to Canada, I felt free and have come to love myself as I am.

Weekday routine

From dawn till dusk, I enjoy the time in Halifax, which has a great

atmosphere. I will share my weekday routine. I hope this helps you ☺

6:30 am: wake up
8:00 am: leave home
| I use the Halifax Transit bus to commute.
9:30 am: start the morning class (we have a 15-min break at 10:45 am)
12:00 pm: finish the first class
1:30 pm: start the afternoon class (we have a 15-min break at 2:45 pm) *
4:00 pm: finish the second class
| free to explore Halifax!
9:00 pm: arrive at home
12:00 am: go to bed



*This class is elective, so that you choose one class, either "Teaching in English" or "English in Use."

After school, you can go somewhere, like downtown, but why don't you also explore Dalhousie University? In and around the univ, there are a lot of places that I recommend you go to.

Dalhousie Libraries
Studley Quad: On sunny days, you can have a very good and calm time there, like doing picnics, lying down, reading books, chatting with your friends, etc.
Dalhousie International Center: You can enjoy playing card games there.
Dalplex (gym): working out place; a lot of college games are held there, e.g., basketball, volleyball, swimming, etc.

Recommendation spots

Do you have the same feeling like "Oh! Where should I go for sightseeing

in Halifax?" Well, I will suggest places for sightseeing spots. I hope you will like it.

Waterfront: there are a lot of events that are held.
Maritime Museum of the Atlantic: this is a place you can learn about the *Titanic*.
Halifax Citedal National Historic Site: You will be welcomed by staff who wear traditional clothes. You can listen to the Scotish songs by bagpipes.
Peggys Cove: very beautiful and relaxed place to go.

Shops Review

I recommend that you go Downtown after school. There are lots of shops within walking distance because Halifax is a small town. I'm going to introduce some eateries and thrift clothing shops.

If you want to try some Canadian food, you must try Donair and Cows ice-cream! You can eat them in Waterfront. If you are a big fan of thrift clothes, you should explore Downtown! You will discover new clothes in fancy shops every day. There is a mobile thrift store called Metro Thrift Bus, so check the location on Instagram!

Interview! "What are your most memorable things?"

Noah
[Waterfront warehouse]
I ate fish and chips, and it was so delicious. Also, I could talk with Chilian boys a lot. It was an amazing night!
Daigo

[The night with Moemi]
It's one of the precious experiences in Halifax. We could talk a lot.
After that, we went to the Score Pizza shop with another student, Kirane. The way to the shop is exciting too.

Kei
[AN-TO-JO]
Because it was my first-time eating Tacos, it was very delicious!
Also, I like the good atmosphere in the restaurant.

Hana
[Classes]
Classes in Dalhousie university were very exciting for me. Because some activities were so fun, and I could learn many fresh and interesting teaching methods. In Japan, I don't like to speak English in front of classmates but here I could speak with the teacher thanks to the good atmosphere in the class. Thank you!

Sakura
[Touching with Titanic]
I have never watched Titanic before. It was a wonderful time to watch with my friends in Halifax. Halifax is really familiar with Titanic, so I was impressed with going to the place related to the Titanic and learning about it.

Moemi
[Meeting with International students]
I became good friends with them in a short time.
It was a very precious experience for me.

Kirane

[Host family]

This experience has had a great impact on my life.

I could be friends with my roommate Rayen, too!

In addition, my host mother's dishes were awesome!

Advice

It's better to bring some gifts related to Japan or your hometown because it helps you to start conversations naturally. This is a good way to make friends! If you do a homestay, you can ask your host family what they are interested in before you go to study abroad. On the other hand, you should not break the laws in Canada and house rules to have a good time with each other. Understand the differences of cultures and accept them. *When in Rome, do as the Romans do!*

At last, I will give you tips on successful study abroad. That is… talking to people!!! When you have a question, ask someone! When you are in a pickle, ask someone! When you feel uncomfortable, ask someone to help you! Haligonians are really kind.

Break a leg!!

Thank you for reading our newsletter!

２．スペイン語圏

2022 年度春～ 2023 年度のスペイン語圏関連の活動報告

増井　実子

新型コロナウイルス感染拡大によって 2020 年度から外国語学部の海外プログラムは中止されていたが、2022 年度は感染対策に留意しつつ再開された。スペインについては、提携先のアリカンテ大学において以下のプログラムが実際された。

- ショート留学　１名（2 年生）2023 年 2 月～ 3 月（２ヶ月間）
- 語学研修　７名（4 年生 4 名、3 年生 2 名、2 年生 1 名）2023 年 2 月（１ヶ月間）

帰国した学生たちの報告を以下に掲載する。

挨拶から感じた文化の多様性

20122061　村山　天音
（2022 年度　スペインアリカンテ大学　語学研修参加）

私は 2023 年 2 月、アリカンテ大学の語学研修に参加した。研修中はホームステイをしながら、平日の午前に大学でスペイン語を学び、午後と休日にはアクティビティへの参加や散歩、買い物などをして過ごしていた。アクティビティには、スペイン内戦史料センターの見学があり、そこでの体験が特別研究のサブレポート執筆へと繋がった。それも含めてこの語学研修は有意義なものだったと思う。

そのような研修の中で、印象的に感じた異文化体験としては Dos besos（ドス・ベソス）が挙げられる。Dos besos とはスペイン語で「2 回のキス」という意味で、親しい間柄で挨拶のために行うチークキスのことを指す。左頬と右頬と合計 2 回頬を寄せ合うので Dos besos と呼ばれる。

アリカンテに到着して、まずホストファミリーとの対面式があった。名前を呼ばれたら前に出て、Dos besos をして挨拶をするというものだった。友人たちが

ホストマザーと照れながら挨拶をしているのを見て、微笑ましいと思いつつドキドキして自分の番を待った。ついに名前が呼ばれ、前に行くと迎えに来てくれていたのはホストブラザーとその恋人だった。「え、初対面の男の人と！？」と戸惑いつつ、とても緊張しながら Dos besos を交わしたのを覚えている。

その後、ホームステイ先に到着し、そこでホストマザーと挨拶をしたときも慣れないことで緊張はしたが、Dos besos のおかげでホストファミリーへの不安が消え、この人たちとこれから生活を共にするんだという温かな気持ちが芽生えたように感じた。４週間の語学研修が終わり、出発の日には、ホストマザーに Dos besos とハグをして涙ぐみながらお別れした。スキンシップを伴うスペインの挨拶の型は、その習慣がない私からすると最初は非常に戸惑ったが、スペインでの生活の中で、相手との信頼関係を築くためには重要なものだと知ることができた。

私は、この語学研修を通して文化や価値観は多様であるということを改めて実感した。スキンシップを伴って挨拶をする、しないのように、国や地域ごとに文化や価値観は違う。さらに、育ってきた環境によって個人でも価値観は異なり、一括りにはできない、ということにも気がつくことができた。ただ、この気づきは外国語学習と同じように、常に意識していないとふとした拍子に忘れてしまう。今後も様々な人との出会いがあるので、スペインで実感したことを忘れないようにしたい。

アリカンテの街並み

¡Baile! 私流の異文化交流

20122062　望月　愛
（2022 年度　スペインアリカンテ大学　語学研修参加）

「スペインでフラメンコを踊る」。これは私がスペインの語学研修への参加を決めた時からやりたいと思っていたことの一つであった。そしてそれは、私が一年生でフラメンコ部に入部した時からの「人生で叶えたい夢」でもあった。

研修の終盤に行われたグラナダ旅行で、そのバルを訪れたのは、本当に偶然だった。本場のフラメンコのショーを鑑賞した後、私は、同じ大学の先輩や友人と、近場で夕食を取ることになった。フラメンコの本場であるアンダルシアでフラメンコ鑑賞ができたことで、すでに十分満足していたのだが、その後の体験が私の思い出をさらに色濃くした。

夜も遅い時間だったこともあり、とにかく開いているバルへと入ると、10 人ほどの団体客が何かのお祝い事をしているようで、ギターやタンバリンで賑やかな音色を奏でながら、セビジャーナスを踊っていたのである。セビジャーナスはスペイン南部アンダルシア地方のセビージャで踊られる舞踊で、ステップや振り付けが簡単なのでフラメンコの初心者がまず習う踊りである。もちろん、私も踊れる。食事をしながらも、「ああ、あの輪に入って一緒に踊りたい」と終始落ち着かなかった。

「¡Bailo flamenco en Japón!（私、日本でフラメンコを踊っているんです！」食事が終わり、先輩たちが会計をする中、私は思い切って彼らに話しかけた。簡単な振りを見せると私の意図を察してくれて、すぐさま歓迎ムードで仲間に入れてくれた。1 人の女性がパレハ（ペア）を買って出てくれたので、まずは二人で踊り始めたが、曲が進むと 1 人もう 1 人と増え、最後には 4 人で踊った。フラメンコは 1 人ないしはペアでしか踊れないと思っていた私にとって、4 人組というこの踊り方はまさに目から鱗だった。ギター、カンテ（歌）、パルマ（手拍子）の生演奏に支えられ、その場で即興の指示をもらいながら踊るのは、本当に楽しく、刺激的だった。フラメンコの真髄に触れられた、そんな気がした。

今回の語学研修の中で、最も異文化交流を実感できたのはこの瞬間だったと感じている。大学でフラメンコの練習を積んできたからこそ得られた貴重な体験でもあった。ただ、今回の研修を通じて、自分の語学力の未熟さを痛感する機会が多々あったことも事実で、私にとって言語の壁は今でも大きな課題として残っている。今回はフラメンコが突破した異文化交流の壁を、次は自分の言語力で突破したい。それが私の目標である。

グラナダのバルでセビジャーナスを踊る

ゲルニカの衝撃

21122002　秋山ひより
（2023 年度　スペインアリカンテ大学　ショート留学）

私は 2023 年の 2 月から 2 ヶ月間、外国語学部の認定留学生として、スペインのアリカンテ大学にショート留学をしました。アリカンテではたくさんの人に出会い、貴重な体験を得ることが出来ました。

今回の滞在中に私は一つやりたいことがありました。それは 20 世紀を代表する世界的な画家パブロ・ピカソが描いた『ゲルニカ』を見る為に、マドリードまで一人旅をすることでした。事前に計画を重ね、授業のない週末を利用してマド

リードに降り立ちました。

ゲルニカはマドリードのソフィア王妃芸術センターに展示されています。ただその近くにはプラド美術館など世界を代表する美術館があり、まずはそこを巡りました。ベラスケスが描いた『ラス・メニ―ナス』やゴヤの『マドリード、1808年５月３日』など、スペインの各時代を代表する名画をたくさん見て回りました。それら名画は私にスペインの歴史や作者の想いなどを考えるきっかけを与えてくれました。今まで教科書でしか見たことのない絵画らが目の前にあるという現実に、不思議な気持ちを感じました。

その後、ついにソフィア王妃芸術センターに足を踏み入れました。本当にここに『ゲルニカ』があるのだと、ワクワクしたことを今でも鮮明に覚えています。階段を上って人の波にのまれながら進むと、『ゲルニカ』はいきなり私の目の前に現れました。その瞬間、全身に鳥肌が立ちました。この感覚を言い表す言葉をいくら考えても、ぴったりな言葉が見つかりません。ただ、私は絵から目を離すことができませんでした。ゲルニカという小さな街が当時どのような姿になっていたのか。子を抱きかかえながら命を落とした母親はどれだけいるのか。絵の前で私は、当時の状況や人々の悲しみを思い描くことが出来ました。

私は日本という戦争のない国に住んでいます。しかし、それは当たり前ではないということを『ゲルニカ』は私に訴えかけてくれました。今この瞬間も戦争をしている国があって、苦しむ人が居ることを忘れない。そのことを忘れずに生きていきたいと思ったマドリード一人旅でした。

またいつか、あの絵の前に立ちたいです。

マドリードのソフィア王妃芸術センター

2023年度　スペイン・ラテンアメリカ特別研究 サブレポート抄録

2023年度のスペイン・ラテンアメリカ特別研究では、4人の受講者がサブレポートの執筆に取り組んだ。以下、抄録とキーワードを紹介する。

担当　増井 実子

バスク地方の魔女狩り

～キリスト教社会から見たバスク地方と森のイメージ～

20122006　伊藤　龍之助

17世紀初頭、ピレネー山脈によりフランスとスペイン分断されたバスク地方では大規模な魔女狩りが行われた。この時代、ヨーロッパでは魔女狩りの嵐が最盛期迎えたが、実はヨーロッパで多くの森が失われ、森林破壊が進んだのもこの時代であった。残された森にはキリスト教以前の異教の神々が生き残り、キリスト教社会にとって脅威と見なされた狼や熊が跋扈していたため、ヨーロッパの人々の森に対する心象が最も悪化した時代とも考えられる。本稿では、バスク地方で魔女狩りが行われた理由を、ピレネー山脈に抱かれ古来より豊かな森林を維持し、独自の文化や習慣を維持していたこの地方の環境と関連付けて論じることを試みた。

キーワード：バスク地方、魔女狩り、森

バスク地方とバスク語

～ 19 世紀から現在まで～

20122023　黒沼マユミ

バスク地方はスペインの北部に位置し、独自の文化や言語を有する。本稿ではバスク地方の歴史を概観した上で、バスク語に焦点を当て、特に 19 世紀以降の歴史の中でバスク語がどのような状況に置かれたかを論じた。フエロスによって保護されてきたバスク語であるが、20 世紀のフランコ政権により弾圧を受け、話者数を大きく減らした。その後、1975 年以降の民主化の時代を迎えると、バスク地方の様々な言語復権運動の取り組みにより、若い世代を中心に話者数は回復してきている。また、スペインの地方公用語の一つであるバスク語が、ＥＵの中でどのように位置づけられるのかという問題にも触れた。
キーワード：バスク地方、フランコ政権、バスク語復権

スペイン内戦を取り巻くプロパガンダ

～共和国陣営ポスターと日本の新聞報道より～

20122061　村山　天音

スペイン内戦では、第一次世界大戦から引き継がれた活字出版や新たに登場したラジオ等を媒体とした戦争プロパガンダが効果的に使用されていた。特に、共和国陣営のプロパガンダポスターは、その視覚的効果から大衆の共和国への支持意識や戦争への参加意識を高めるのに役立った。一方、遠く離れた日本では、フランコ政権と満州国の相互承認を境に、反乱軍賛美の記事が増加した。その背景には､日中戦争への大衆動員を狙う日本政府や軍部の姿を垣間見ることができる。スペイン内戦を取り巻くプロパガンダは、大衆、あるいは国民の感情を高揚させて積極的な大衆動員を行うために使用されていたと考えられる。
キーワード：スペイン内戦、プロパガンダ、大衆動員

スペイン語使用から見るフィリピンの歴史

～植民地時代から現代まで～

20122062　望月　愛

フィリピンという国は、非常に多くの言語に溢れた多言語国家である。本稿では、3 世紀に渡って続いたスペイン統治の歴史があるにも関わらず、現在のフィリピンではスペイン語の影響力が限定的であるのは何故かという問いを立てた。スペイン政府側の低調な植民地政策、辺境にあったことから政府からの干渉を受けずに活発化したキリスト教の活動、フィリピンの言語方針に対する政教対立、といった様々な事情が重なったことを明らかにした。また、20 世紀に入り、アメリカ合衆国に統治権が移行されると、わずか 50 年弱で英語は目覚ましい勢いでフィリピンに普及した。さらにスペル規制のような知識人によるタガログ語のナショナリズム運動が活発化したことも、現在のフィリピン国民にとってスペイン統治の歴史と言語が重みを持たない理由であると考えた。

キーワード：フィリピン、スペイン語、植民地政策、スペル規制

３．ポルトガル語圏

地球の危機の現場からの声を聴いて

22122009　大木萌々華

私たちは戦争反対という言葉をよく使ってしまう。しかし、戦争はそんなに単純なものではないこと、世界中の誰もが悲惨な目にあってはいけないという考えをもち発言することが大切であることを、フォトジャーナリストの渋谷敦志さんの特別講義で学んだ。ウクライナの人々は、武器で戦うだけではなく、事実を集めて糾弾しようとしていることも知った。事実を集めることは一人ではできないから、写真を撮り、インタビューをして、それを多くの人に伝える仕事をする渋谷さんのような戦場カメラマンをウクライナの人々は必要としているに違いない。日本人という枠組みにとらわれず、世界に飛び出すことが、日本を見直すきっかけにもなる。講義を聴いて、現在、言語やその地域の歴史や文化を学んでいる私たちの強みを活かして、多角的な視点で物事を見ることができるようになりたいと思った。

ウクライナの若者は、2014 年から続くロシアとの戦争によって、意識が変わり、自分たちで国の在り方を決めるために、戦い、国を取り戻そうと考えているという。一方で、日本人の若者は、選挙に参加する人も少なく、平和だからと安心して、自国の制度や法律について考えていないように思える。私たちは、未来を担う者として、一票に責任を持ち、制度や法律などに疑問を持ち、自分たちで国を変えよう、未来のその先まで、平和であるように意識や行動を起こすことが大切なのではないかとウクライナの若者の話から考えた。

さらに、アフリカのマラウィの自然災害による被害については、住民に知識がないために、復興することができないまま、何度も被害にあっていることを知った。知識がないことが、こんなにも恐ろしいということを改めて認識した。自然災害で苦しむ地域の人々の多くは教育を十分に受けておらず、被害を受けるだけなのだ。住民への支援をする国際機関やＮＧＯが、そうした地域に入っていることを知った。

今後は、写真や言葉を通じて、事実を私たちに伝えてれた渋谷さんのような人

から学んだことを、自分の知識にして、今できることはないのかを考え、行動に移していきたい。そして、私たちが暮らす日本でも、今のような生活ができなくなる可能性があるということを忘れないようにしたい。当たり前だと考え、現状に満足してしまうことこそ、時代の変化に鈍感になる危険性がある。多様性が浸透しつつある現在、日本に滞在する人々、居住する外国籍の人々を、「お客様」ではなく「仲間」であるという意識に変え、人種差別や偏見を見直さなくてはならない。そのためにも、日本という枠組みにとらわれない思考力を持ち、積極的に行動して、様々な人々とのつながりを作る必要があると強く感じている。

４．中国語圏

2023 年度の中国語圏における研修

若松　大祐

2023 年 5 月に厚生労働省が新型コロナウイルス感染症を 5 類感染症に位置付け、日本ではコロナ禍がようやく終了した。これに伴い、中国語圏での研修活動が 2019 年度までと同じように、実施可能になる。

(1) 中国語圏での長期留学

場所：銘伝大学華語訓練中心

参加者：0 名

(2) 中国語圏での語学研修

< 対面 >

場所：銘伝大学華語訓練中心

時期：2023 年 8 月 9 日（水）～ 9 月 1 日（金）、23 泊 24 日

参加者：1 名

<on-line>

参加者：0 名

(3) 中国語圏での臨地実習

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により実施することができなかった「臨地実習 C」は、2023 年度より再開される。2024 年 3 月 6 日より 3 月 13 日までの 1 週間余り、中国福建省漳州市に位置する閩南師範大学外国語学部（協定校）に滞在し、日本語学科の授業・課外活動に参加するとともに、同大学および周辺地域での参観を実施する予定である。

すでに 2022 年 11 月より事前指導の授業が始まり、12 月には閩南師範大学学生とオンライン・ミーティングを実施する等、より有意義な実習に向けて着々と準備を進めている。

なお、2023 年度より「臨地実習 C」には韓国クラスも編成され、中国クラス同様 2024 年 3 月上旬の予定で、韓国ソウル市の国民大学での現地実習へ向けて事前指導が実施されている。

(4) グローバルコミュニケーション学科の報告会

グローバルコミュニケーション学科では、人間力セミナーの時間を使い、「海外語学研修報告会」（第 8 回）と「学生海外活動報告会」（第 15 回）を毎年実施している。

・海外語学研修報告会

日時：11 月 8 日（水）2 時限

場所：B416 教室

題目：台湾语言进修经验（台湾語学研修報告）

発表言語：中国語

報告者：小泉杏果

Ⅵ　退職者

長年にわたって御指導くださり、
ありがとうございました。

戸田 勉　TODA Tsutomu

教授
所属：外国語学部・大学院国際言語文化研究科
学位：修士(文学)

学歴

1984年　明治学院大学文学研究科(英文学専攻)博士課程後期単位取得満期退学

主な経歴

1984年～ 1989年　山梨英和短期大学 英文学科 専任講師
1989年～ 1995年　同大学 同学科 助教授
1995年～ 2002年　同大学 同学科 教授
2002年～ 2013年　山梨英和大学 人間文化学部 教授
2004年4月～ 9月　在外研究員(ダブリン大学トリニティ・コレッジ)
2013年～ 現在に至る　常葉大学 外国語学部 教授

専門領域(分野)

英文学

研究テーマ

- イギリス及びアイルランド文学・文化

主要な研究業績・社会活動実績

- 『文学作品に学ぶ英語の読み方・味わい方』(共著)開文社　2022年
- 『ジョイスの挑戦－「ユリシーズ」にハマる方法－』(共著)言叢社　2022年
- 『架空の国に起きる不思議な戦争－戦場の傷とともに生きる兵士たち』(共著)開文社 2017年
- 『アイリッシュ・アメリカンの文化を読む』(共著)水声社　2016年
- 『ジョイスの罠－「ダブリナーズ」の罠に嵌る方法』(共著)言叢社　2016年
- 『アントニー・トロロープ短篇集 I、II、III』(共訳)鷹書房弓プレス　2004年 2008年 2017年
- ジョン・マクガハン『男の事情　女の事情』(編・共訳)国書刊行会　2004年
- A. N. ファーグノリ　他『ジェイムズ・ジョイス事典』(共訳)松柏社　1997年
- 社会活動　日本ジェイムズ・ジョイス協会、日本英文学会、IASIL(会員)

石川 芳恵　ISHIKAWA Yoshie
特任教授
所属：外国語学部
学位：修士（文学）

学歴

2003年　ノッティンガム大学大学院 教育学部 英語教授法学科 修士課程

主な経歴

1983年～ 2007年	静岡県立清水東高等学校、庵原高等学校、静岡高等学校、静岡東高等学校 教諭
2007年～ 2010年	静岡県総合教育センター 指導主事
2010年～ 2013年	静岡県立大井川高等学校 教頭
2013年～ 2015年	静岡県総合教育センター 班長兼主任指導主事
2015年～ 2016年	静岡県立富士宮北高等学校 副校長
2016年～ 2018年	静岡県立藤枝北高等学校 校長
2018年～ 2021年	静岡県立清水南高等学校・同中等部 校長
2021年～	常葉大学 外国語学部 特任教授

専門領域（分野）

第二言語としての英語教授法

研究テーマ

- 教室環境における効果的な語彙指導法

主要な研究業績・社会活動実績

- 「語彙学習の実態と教師および生徒の意識－静岡県内の公立高校の英語科教員および生徒へのアンケート調査より－」（田村知子、白畑知彦との共著）『教科開発学論集』第 6 号（35 ～ 45ページ）愛知教育大学大学院・静岡大学大学院 教育学研究科 共同教科開発学専攻、2018。
- 「英語語彙学習の効果に関する研究－高校生を対象としたチャンク学習と単語単独学習の比較－」（大瀧綾乃との共著）『The Language Teacher』Vol. 45（15 ～ 19ページ）全国語学教育学会、2021。

石川芳恵先生は令和 5（2023）年 11 月 1 日（水）に永眠されました。
ここに心からの哀悼の意を表すとともに、ご冥福をお祈りいたします。
（外国語学部教員一同）

相葉 吉輝　AIBA Yoshiteru

講師
所属：外国語学部
学位：修士

学歴

1990年11月21日　英国国立ロンドン大学 ユニバーシティ・カレッジ大学院 修士課程 音声学・言語学科 卒業(MA 取得)

主な経歴

1991年4月1日　常葉学園大学 外国語学部 英米語学科 助手(1991年～ 2000年まで英語音声学、LL 演習、英語表現法等の授業を担当)
1991年4月1日　常葉学園短期大学 英文科 兼任講師(～ 1994年3月まで)
2000年4月1日　常葉学園大学 外国語学部 英米語学科 講師(～現在に至る)
2001年4月1日　愛知大学 経済学部 地域政策学部 非常勤講師(～現在に至る)

専門領域(分野)

英語音声学・英語学

研究テーマ

- 英語教育における英語の発音と文法について。

主要な研究業績・社会活動実績

- ロンドン大学大学院修士論文　An Auditory Analysis of the Main Segmental Errors in Japanese Learners' Pronunciation of English　1990年9月28日　英文93ページ　※査読有
- 筑波大学 島岡丘教授 還暦記念論文集「英語音声学と英語教育」～英語の Yes と No の音調核について～　1992年9月7日　開隆堂　5ページ　※査読有
- 'English education to be brought into view for Japanese primary school succeeded in the learners with high proficiency of the language in the Netherlands' 2017年3月1日　英文15ページ　常葉大学外国語学部紀要

Ⅶ　外国語学部言語文化研究会

『とこはことのは』37 号の編集の現場

2024 年 2 月 6 日 (火)10:00-17:00 に草薙キャンパス A520 教室で、教員 3 名と学生 1 名が『とこはことのは』の編集（初校）を行いました。

これまで私は『とこはことのは』をすべて読むのではなく、自分の参加するプログラムに関する寄稿を読むだけだった。校正作業に参加するにあたって、掲載されるものをすべて読む。すると、自分の参加していないプログラムやこの学部の学びを沢山知ることとなり、自分がこの学部で何をしたいかを考える大きな手掛かりとなった。校正作業はいつも以上に言葉の適切さに気を配る必要があり、有意義な経験だった。

今年は学生による寄稿は少なかった。外国語学部をより深く知ることのできるこの『とこはことのは』を、多くの人に読んでもらいたい。

（落合優音）

2023 年 1 月下旬に日本政府は、2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症を、感染症法上の 2 類から 5 類へ引き下げるという決定を下す。こうした変化のために、外国語学部にとってのイベントも増えて、『とこはことのは』への寄稿も増えるかと思いきや、コロナ禍での 34 号 (2021.03) の 185 頁や 35 号 (2022.03) の 172 頁に比べ、昨年度の 36 号 (2023.03) は 132 頁であり、今年度の 37 号 (2024.03) にいたっては 102 頁というように、寂しい結果である。

Ⅶ．外国語学部言語文化研究会

（若松大祐）

編集後記

不思議なことに、月日の流れるスピードは、年を重ねるごとに速く感じられるものである。このことを強く実感するのが、毎年の恒例行事が訪れた時だ。今年で 3 回目となる『とこはことのは』の編集作業も立派な恒例行事となり、「ああ、今年度も終わるなあ」と感慨に浸りながら、寄せられた原稿を拝読した。執筆者が目標に向かい力を注いだ活動の記録を読むことは大変愉快である。何かに取り組んだ経験は、重ねられた年月に彩りを添える。その彩りがいつまでも褪せることのないように、記録として残しておくことは非常に大切なことだろう。来年度も多くの方の投稿を期待している。

（那須野絢子）

今回、編集作業において、学生さん達の投稿を読ませていただいた中で、留学に関する投稿が多数見られました。コロナ禍が明け、やっと自由に渡航できるようになり、学生さん達の喜びや留学の意義を投稿に見ることができました。留学において、英語学習はあくまでもツールであり、目的ではないことを確認することができたかと思います。日本国内で勉強している学生の皆さんも英語はツールであることが理解できるような授業を作っていきたいと編集作業を通して改めて思いました。

（宮腰宏美）

コロナ禍で浮き彫りになった問題の多くが解決しないままである。人々が国境をまたぐ機会が増えたのに「とこはことのは」への投稿は増えずに、むしろ減った。2024 年度はたくさんの投稿があることを願っている。

（若松大祐）

とこはことのは
第 37 号
2024 年 3 月 10 日
発　　行：常葉大学 外国語学部 言語文化研究会
代　　表：増井実子
編集委員：若松大祐（委員長）、有富智世、那須野絢子、宮腰宏美
連 絡 先：〒 422-8581 静岡市駿河区弥生町 6 番 1 号
常葉大学外国語学部『とこはことのは』編集委員会
TEL（054）297-6100［代表］, FAX（054）297-6101［代表］
https://www.tokoha-u.ac.jp/language/publication/
ISSN: 2435-8851

印刷製本　株式会社　篠原印刷所
〒 422-8033 静岡市駿河区登呂 6 丁目 7 － 5
TEL (054) 286-5141

旧　題

Albion

ドーヴァーの白壁

題字は諏訪卓三（元学長）による。扉絵の作者は不明。